

---

---

新 発 田 市  
子ども・子育てに関するニーズ調査  
結果報告書

---

---

《概要版》

平成31年3月

新発田市 こども課



# 目 次

頁

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的.....	1
2 調査の実施要領.....	1
3 配布数・回答数.....	1
4 調査対象者の属性・家族状況.....	1
(1) 年齢・子どもの人数.....	2
(2) 住まいの地区.....	3
(3) 調査回答者の状況と配偶者の有無.....	4
(4) 家庭内の役割分担の状況.....	5
<b>II 調査結果</b> .....	<b>6</b>
1. 子どもの育ちをめぐる環境について.....	6
(1) 子どもをみてもらえる親族や知人の状況.....	6
(2) 祖父母等の親族にみてもらっている状況.....	7
(3) 友人・知人にみてもらっている状況.....	8
2. 保護者の就労状況について.....	9
(1) 父親の就労状況.....	9
(2) 父親のフルタイムへの転職希望.....	10
(3) 父親の就労希望・希望する就労形態.....	11
(4) 母親の就労状況.....	12
(5) 母親のフルタイムへの転職希望.....	13
(6) 母親の就労希望・希望する就労形態.....	14
3. 育児休業の取得状況について.....	15
(1) 育児休業給付、保険料免除の認知.....	15
(2) 母親の育児休業の取得状況と、母親の育児休業を取得していない理由.....	16
(3) 父親の育児休業の取得状況と、父親の育児休業を取得していない理由.....	18
4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用や意向などについて（就学前児童のみ）.....	20
(1) 利用状況と利用意向.....	20
(2) 平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由と利用していない理由.....	22
5. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童のみ）.....	23
6. 病気の際の対応について.....	24
(1) 病気などによる通常事業休止経験の有無・休止中の対処方法.....	24
(2) 「病児・病後児の保育サービス」の利用意向や利用したいと思わない理由.....	25
7. 不定期の一時預かりや宿泊を伴う預かりなどの利用について.....	26
(1) 一時預かりなどの利用状況.....	26
(2) 一時預かりなどの利用希望.....	27
(3) 宿泊を伴う一時預かりを必要とした状況の有無と対処方法.....	28

8. 地域の子育て支援事業の利用状況について(就学前児童のみ) .....	29
9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	30
(1) 希望する場所と過ごし方の状況.....	30
(2) 土曜日や夏休み等長期休業中における「放課後児童クラブ」の利用希望の有無 .....	31

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本市では、幼児期の学校教育や保育、地域の子育ての量の拡充や質の向上のために「新発田市子ども・子育て支援事業計画」に基づき各種事業を推進している。

2019年度には2020年度から5年間の計画期間とする次期計画の策定を予定しており、本調査は、就学前児童及び小学校児童の保護者を対象に、子育ての状況や生活の実態、保育サービスに対する量的及び質的ニーズ等を詳細に把握することにより、「子ども・子育て支援事業計画」の策定のための基礎資料を整備することを目的としている。

## 2 調査の実施要領

就学前児童用及び小学校児童用の2種類の調査票を作成し、両調査ともにプライバシー保護のために無記名方式により実施した。

就学前児童用	
調査時期	平成30年12月10日から12月31日までの期間
調査対象者及び調査方法	新発田市に在住する0歳～6歳の就学前の子どもを持つ保護者を無作為に抽出し、調査の対象とした。調査票の配布は郵送または園を通して行い、回収は郵送方式とした。
小学校児童用	
調査時期	平成30年12月10日から12月31日までの期間
調査対象者及び調査方法	新発田市に在住する小学校1年生～6年生の子どもを持つ保護者を無作為に抽出し、調査の対象とした。調査票の配布は小学校を通して行い、回収は郵送方式とした。

## 3 配布数・回答数

	配布数	有効回答数	有効回答率
就学前児童用	1,700件	954件	56.1%
小学校児童用	1,000件	635件	63.5%

<本報告書の利用にあたっての注意事項>

- (1) 結果は百分率(%)で表示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した結果、個々の比率が合計100%にならないことがある。  
また、複数回答(2つ以上の回答)では、合計が100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の「n (number of casesの略)」は、質問に対する回答者の総数(該当者質問では該当者数)を示し、回答者の比率(%)を算出するための基数である。

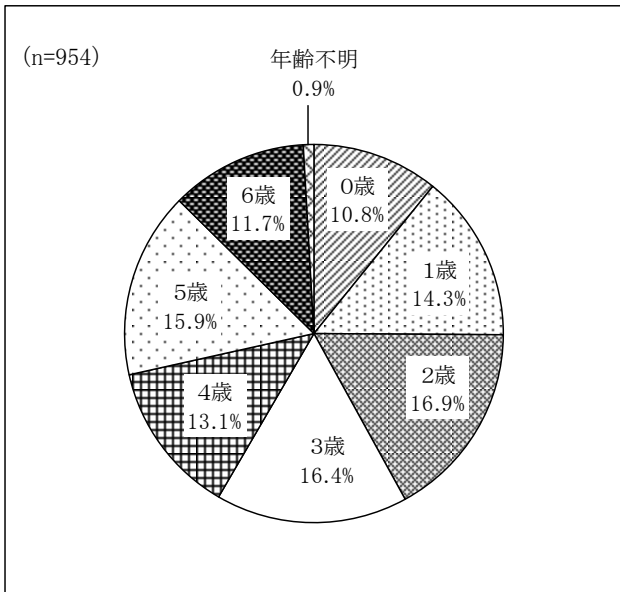
#### 4 調査対象者の属性・家族状況

各基本属性の分布は、以降の図のとおりである。

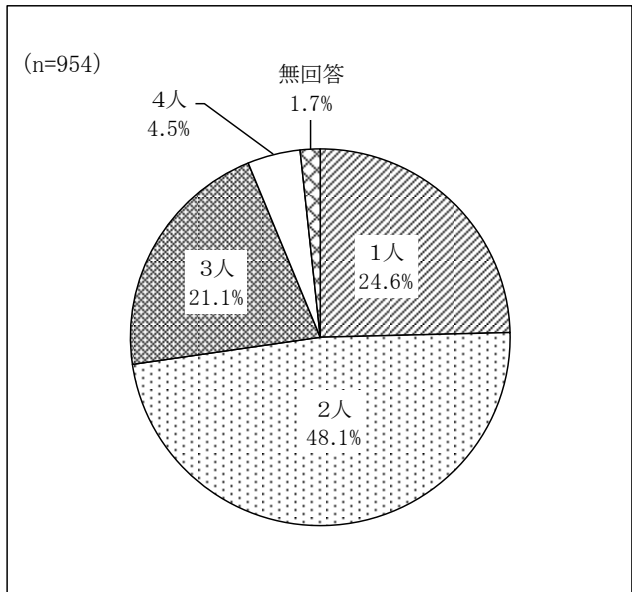
##### (1) 年齢・子どもの人数

###### <就学前児童>

◆子どもの満年齢

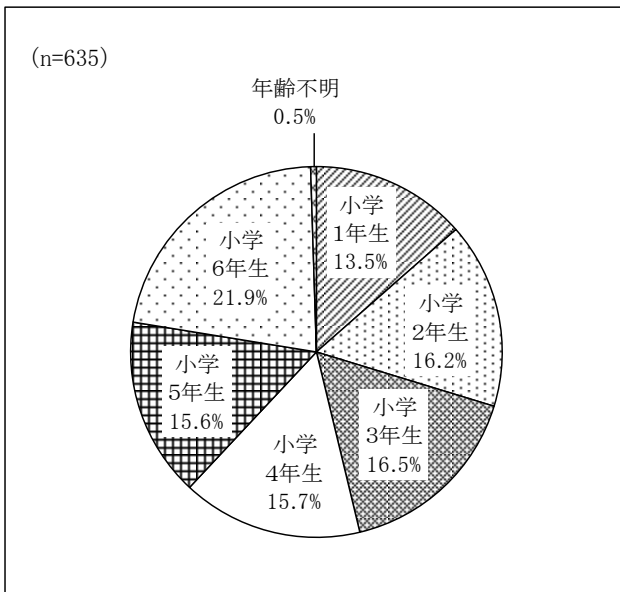


◆子どもの人数

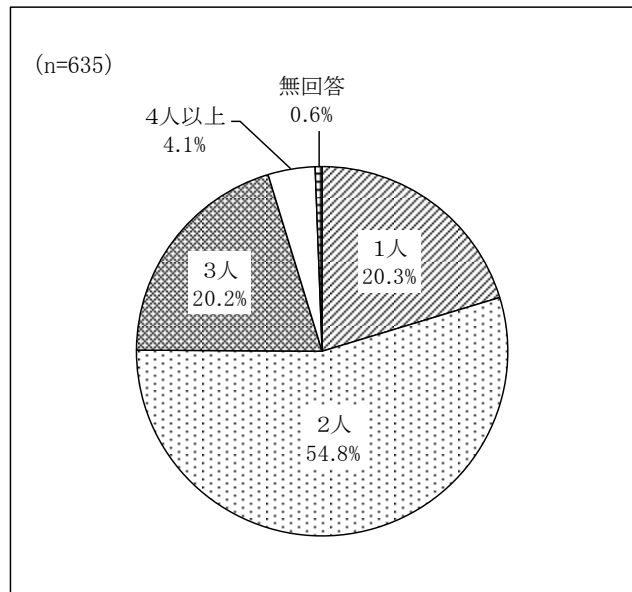


###### <小学校児童>

◆子どもの学年

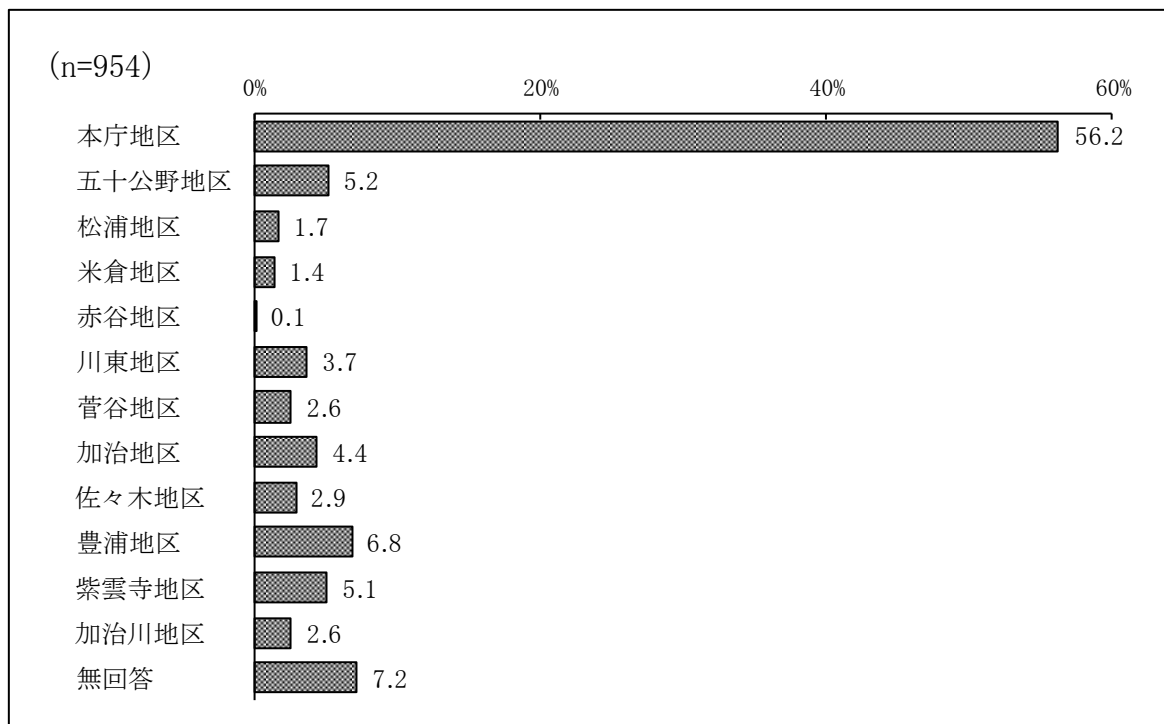


◆子どもの人数

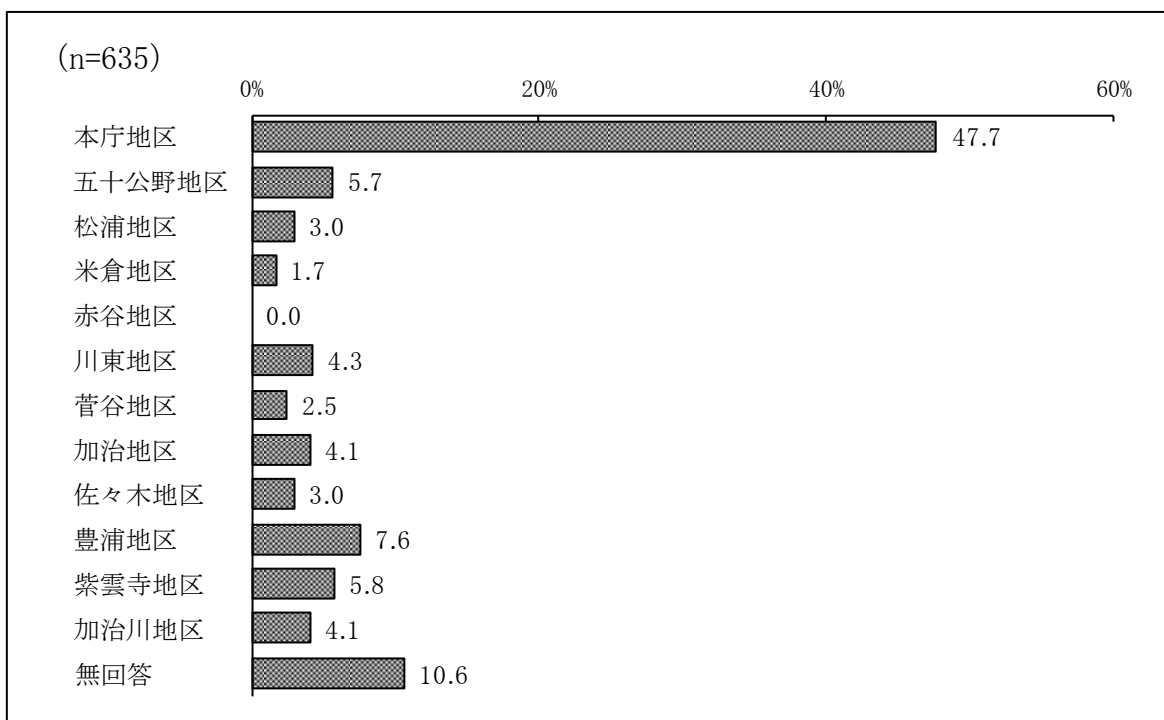


## (2) 住まいの地区

### <就学前児童>



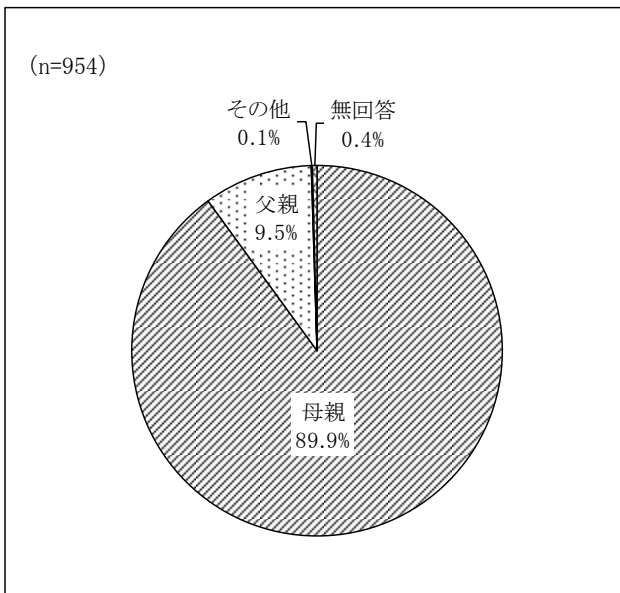
### <小学校児童>



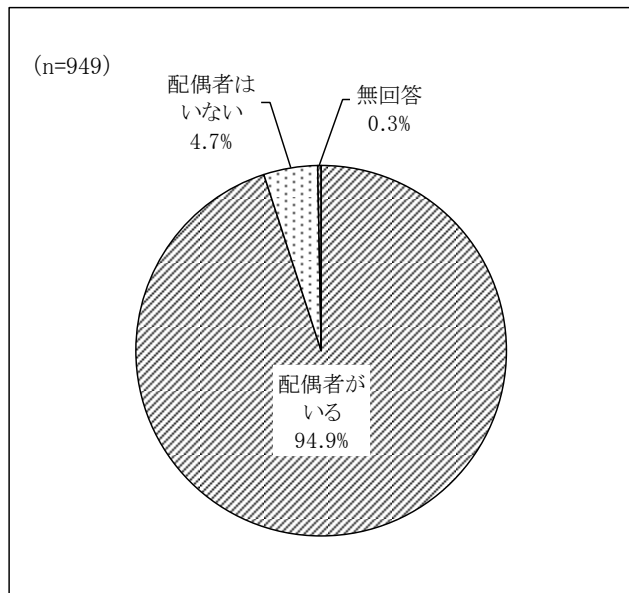
### (3) 調査回答者の状況と配偶者の有無

#### <就学前児童>

◆調査回答者

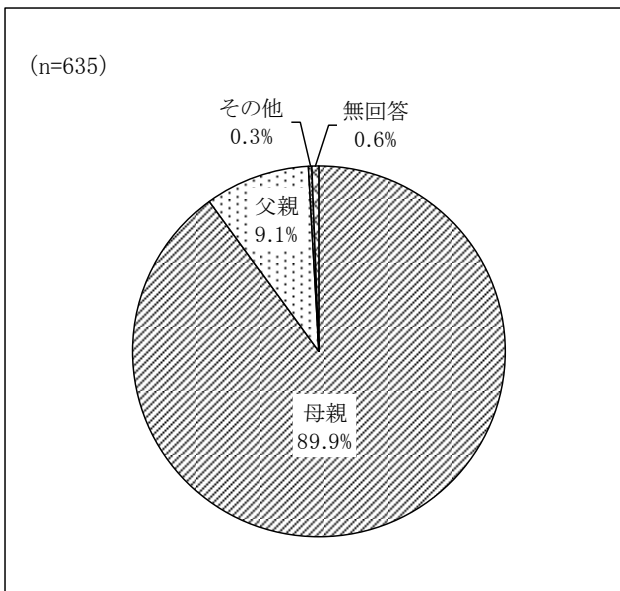


◆配偶者の有無

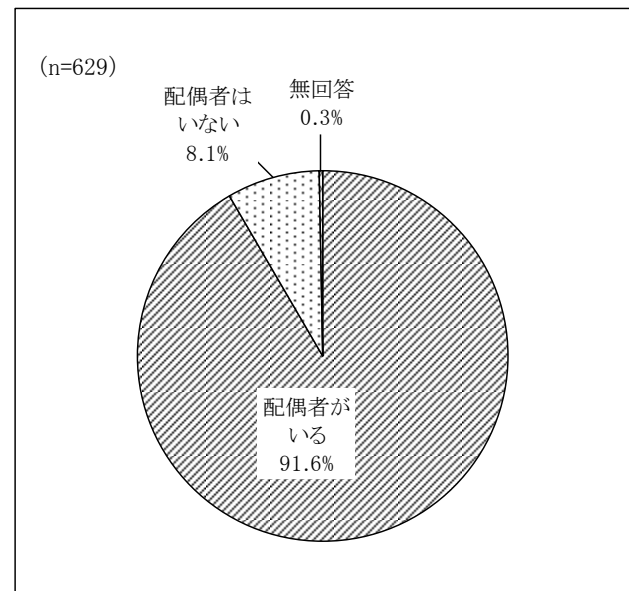


#### <小学校児童>

◆調査回答者



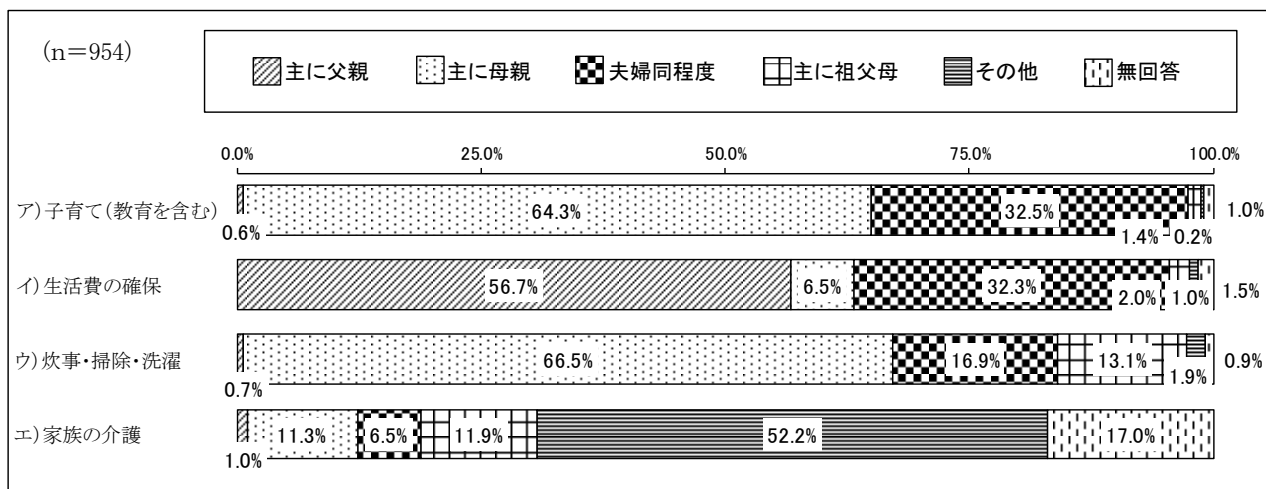
◆配偶者の有無



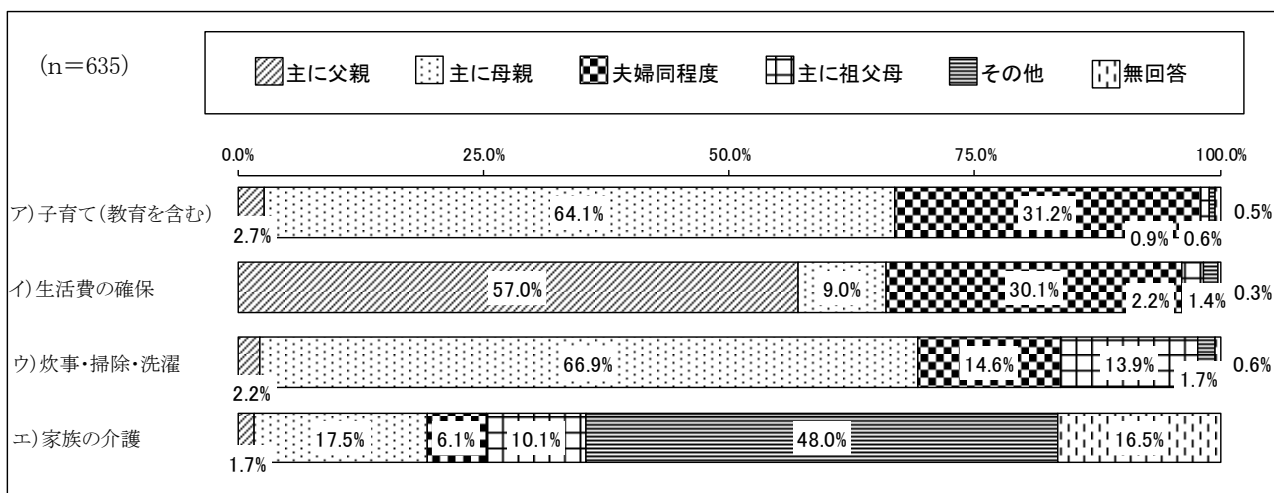


#### (4) 家庭内の役割分担の状況

##### <就学前児童>



##### <小学校児童>



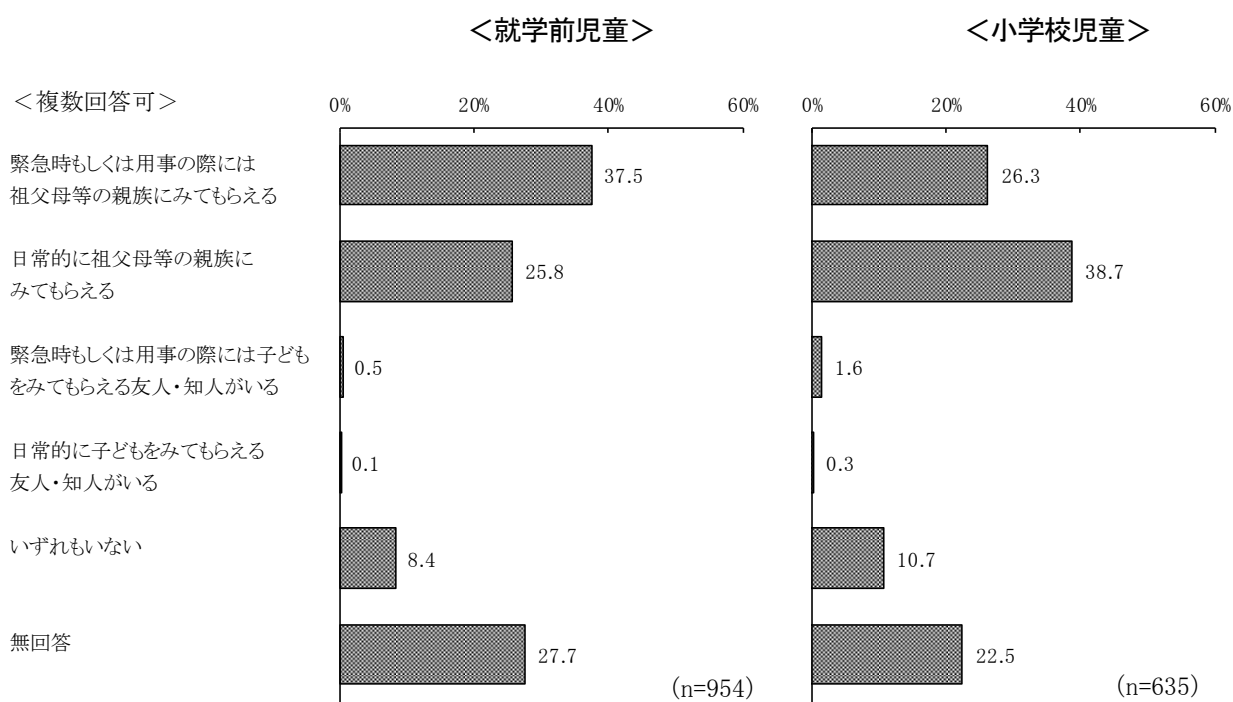
## Ⅱ 調査結果

### 1. 子どもの育ちをめぐる環境について

#### (1) 子どもをみてもらえる親族や知人の状況

就学前児童では、日頃、子どもを「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」のは4割弱である。

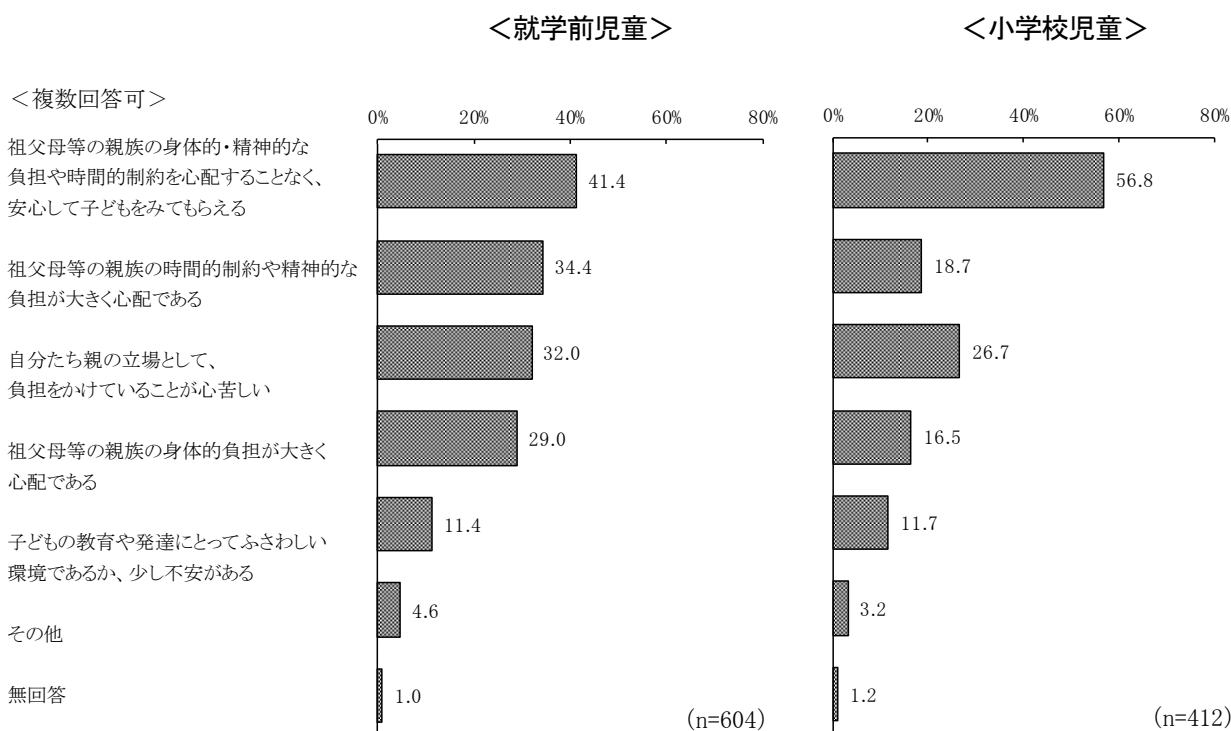
小学校児童では、日頃、子どもを「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が最も高く、約4割である。



## (2) 祖父母等の親族にみてもらっている状況

就学前児童を持つ「祖父母等の親族に子どもをみてもらえる」と回答した604人を対象に、子どもをみてもらっている状況を尋ねたところ、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も高い。次いで「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が続く。

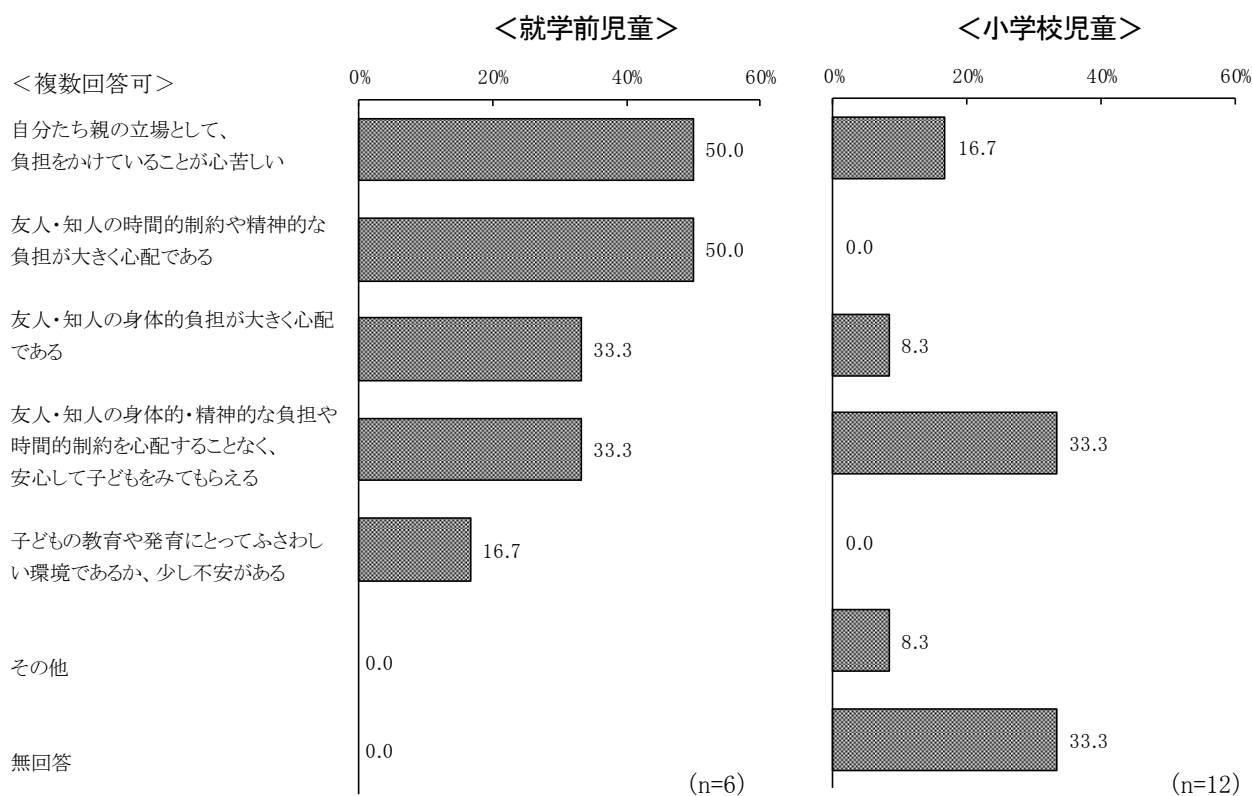
小学校児童を持つ「祖父母等の親族に子どもをみてもらえる」と回答した412人を対象に、子どもをみてもらっている状況を尋ねたところ、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も高く、半数を超えている。



### (3) 友人・知人にみてもらっている状況

就学前児童を持つ「友人・知人に子どもをみてもらえる」と回答した6人を対象に、子どもを見てもらっている状況を尋ねたところ、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」と「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が5割と高い。

小学校児童を持つ「友人・知人に子どもをみてもらえる」と回答した12人を対象に、子どもを見てもらっている状況を尋ねたところ、「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も高い。

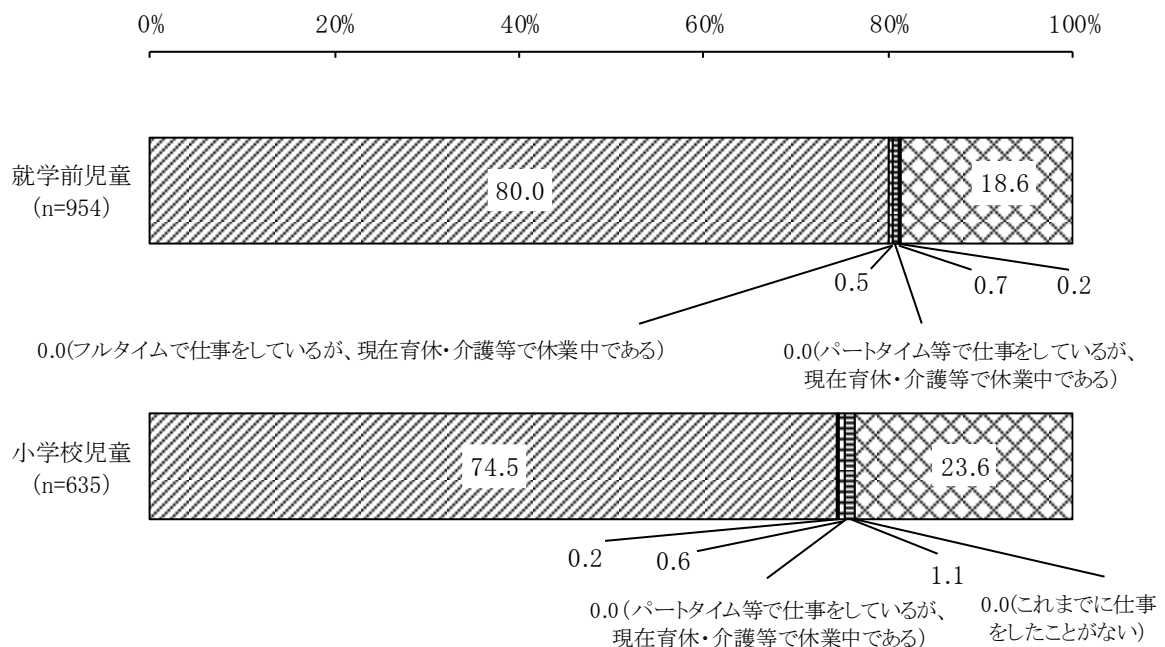
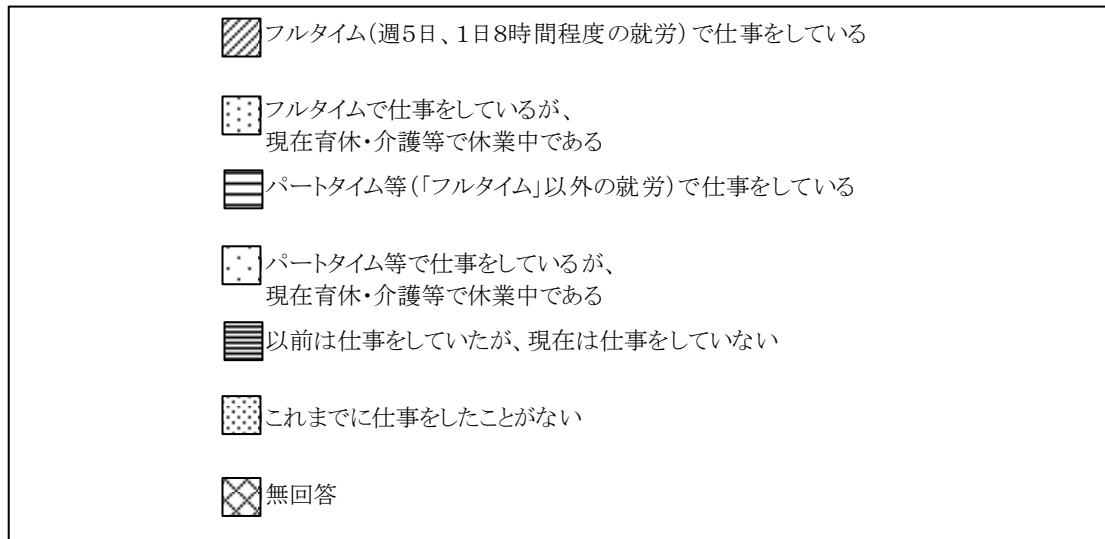


## 2. 保護者の就労状況について

### (1) 父親の就労状況

就学前児童では、「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（育休・介護休業中は含まない）」が多数を占める。

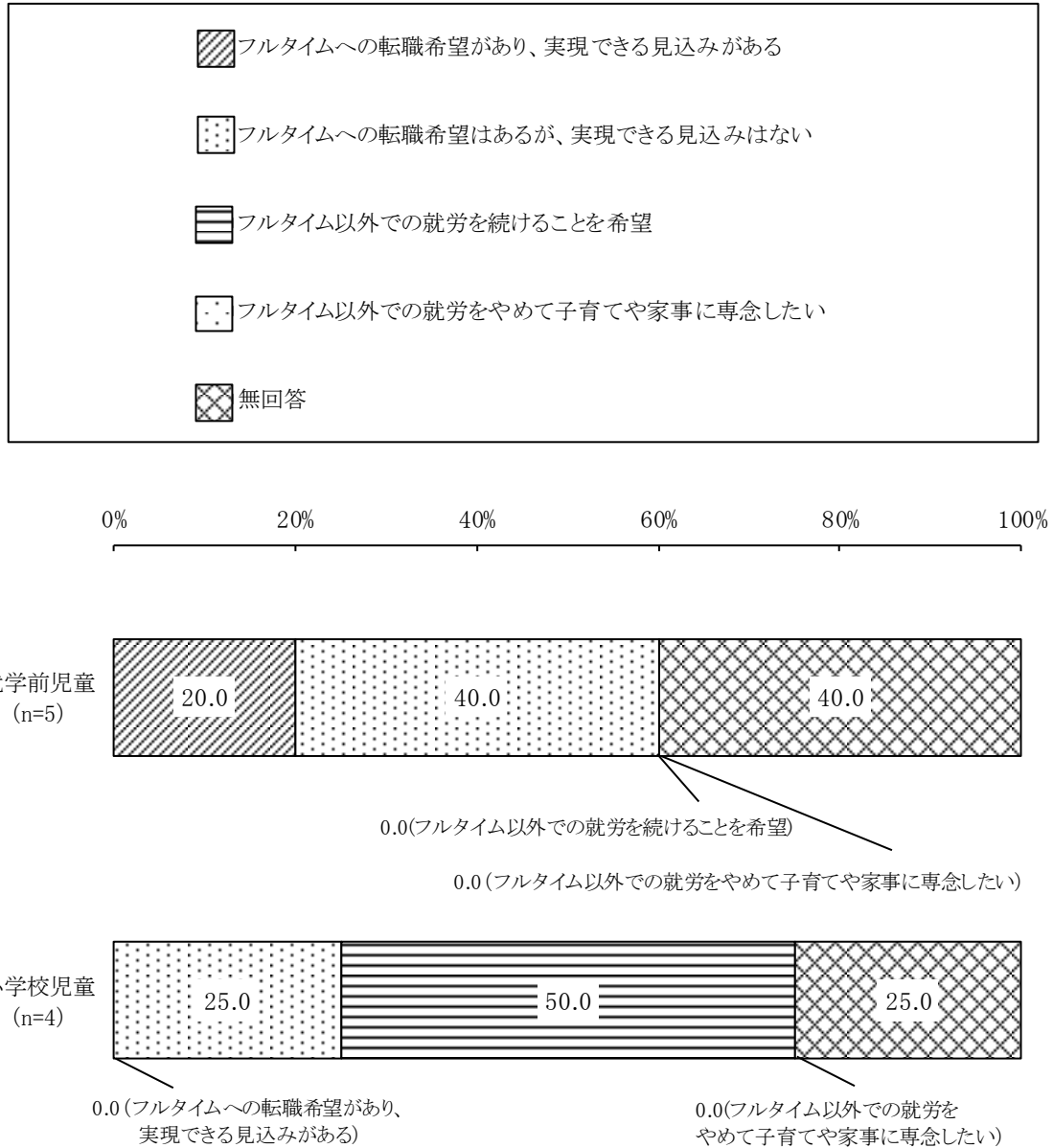
小学校児童でも、「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（育休・介護休業中は含まない）」が多数を占める。



## (2) 父親のフルタイムへの転職希望

就学前児童を持つ「パートタイム等で仕事をしている」父親5人を対象に、フルタイムへの転職希望を尋ねたところ、実現の可否はともかく、6割が「フルタイム」への転職希望を持っている。

小学校児童を持つ「パートタイム等で仕事をしている」父親4人を対象に、フルタイムへの転職希望を尋ねたところ、5割が「フルタイム以外での就労を続けることを希望」している。



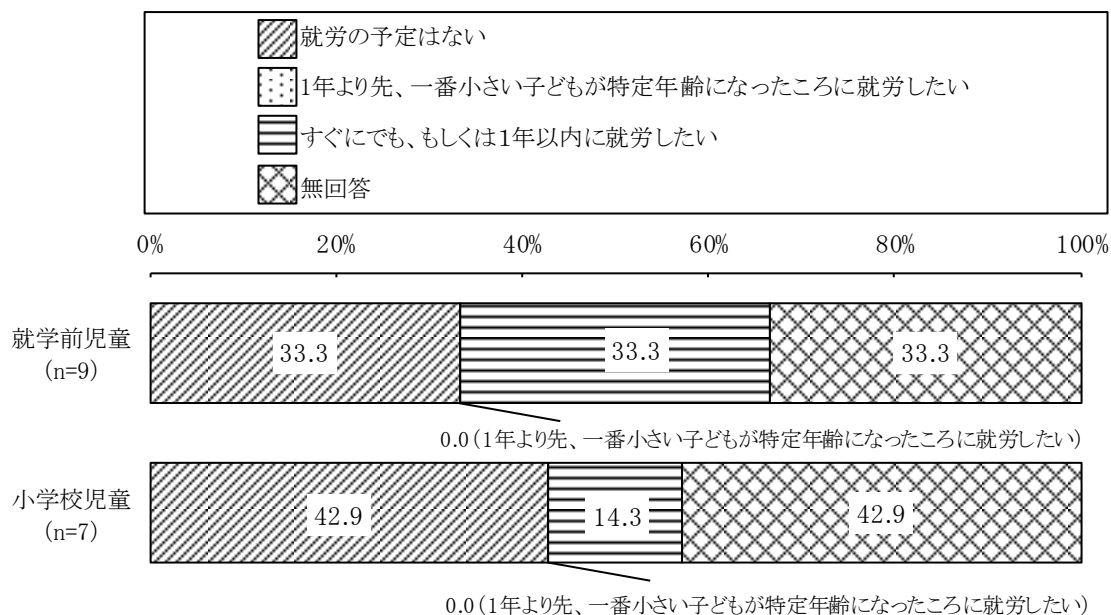
### (3) 父親の就労希望・希望する就労形態

就学前児童を持つ「以前は仕事をしていましたが、現在は仕事をしていない」または「これまでに仕事をしたことがない」父親9人を対象に、就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と「就労の予定はない」が3割台である。

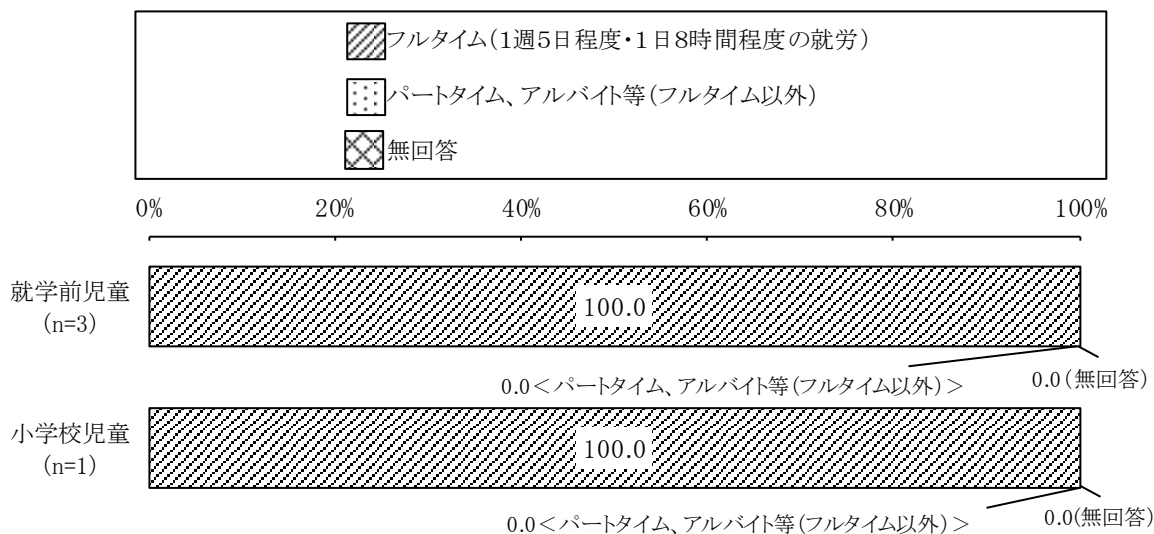
小学校児童を持つ「以前は仕事をしていましたが、現在は仕事をしていない」または「これまでに仕事をしたことがない」父親7人を対象に、就労希望を尋ねたところ、「就労の予定はない」が4割台である。

また、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した全員が「フルタイム」での就労を希望している。

#### ◆父親の就労希望



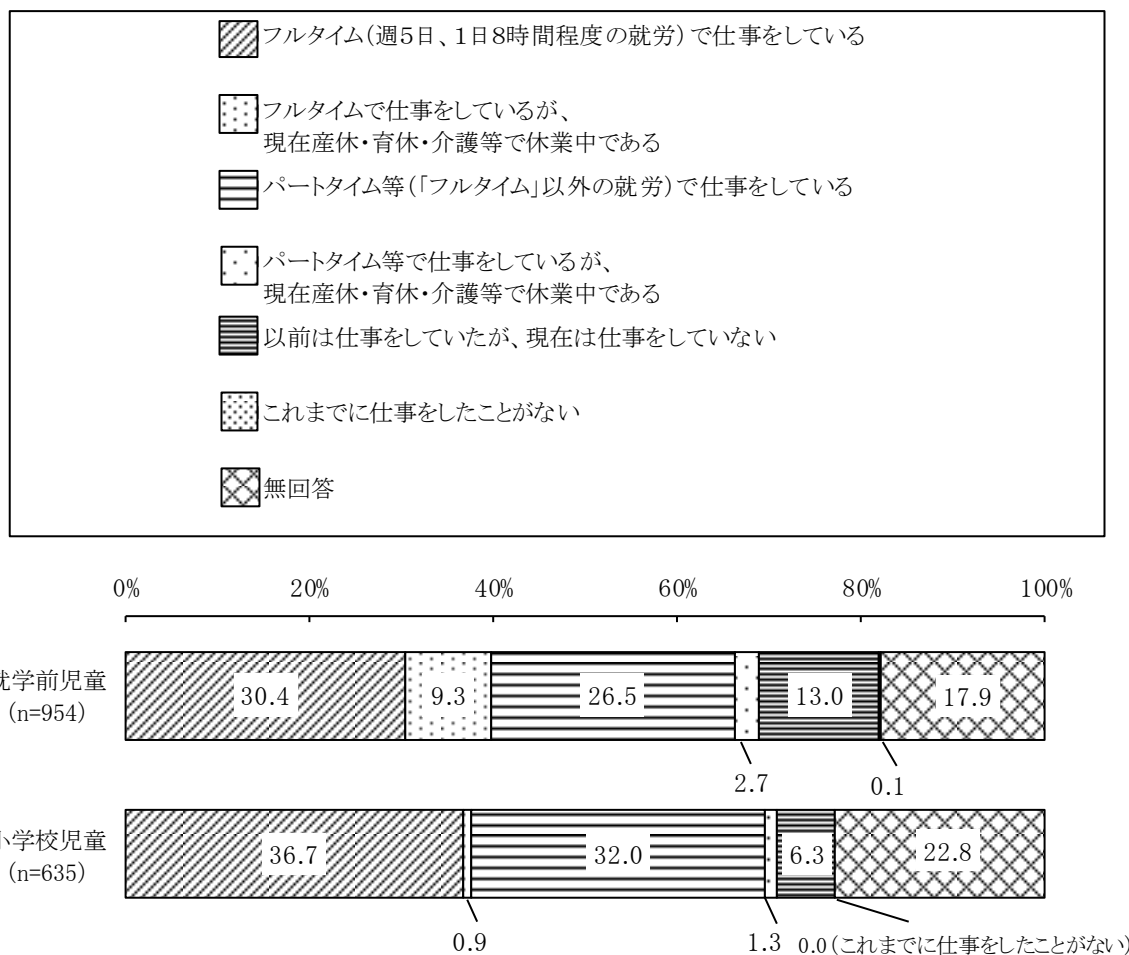
#### ◆希望する就労形態



#### (4) 母親の就労状況

就学前児童では、「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（産休・育休・介護休業中は含まない）」が約3割で最も高く、次いで「パートタイム等で仕事をしている」が続く。

小学校児童では、「フルタイム（週5日、1日8時間程度の就労）で仕事をしている（産休・育休・介護休業中は含まない）」が最も高く、次いで「パートタイム等で仕事をしている」が続く。

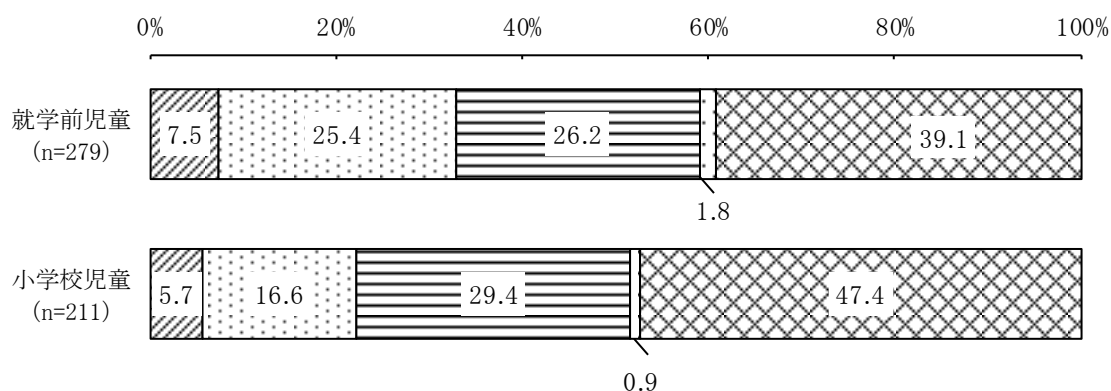
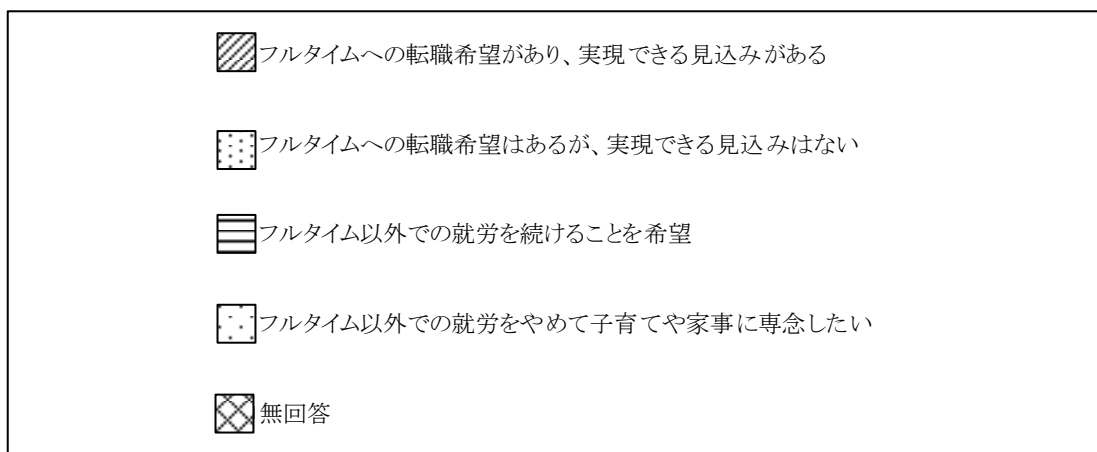




### (5) 母親のフルタイムへの転職希望

就学前児童を持つ「パートタイム等で仕事をしている」母親279人を対象に、フルタイムへの転職希望を尋ねたところ、「フルタイム以外での就労を続けることを希望」が最も多く、次いで「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない」が続く。

小学校児童を持つ「パートタイム等で仕事をしている」母親211人を対象に、フルタイムへの転職希望を尋ねたところ、「フルタイム以外での就労を続けることを希望」が約3割で最も多く、次いで「フルタイムへの転職希望はあるが、実現できる見込みはない」が続く。



## (6) 母親の就労希望・希望する就労形態

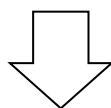
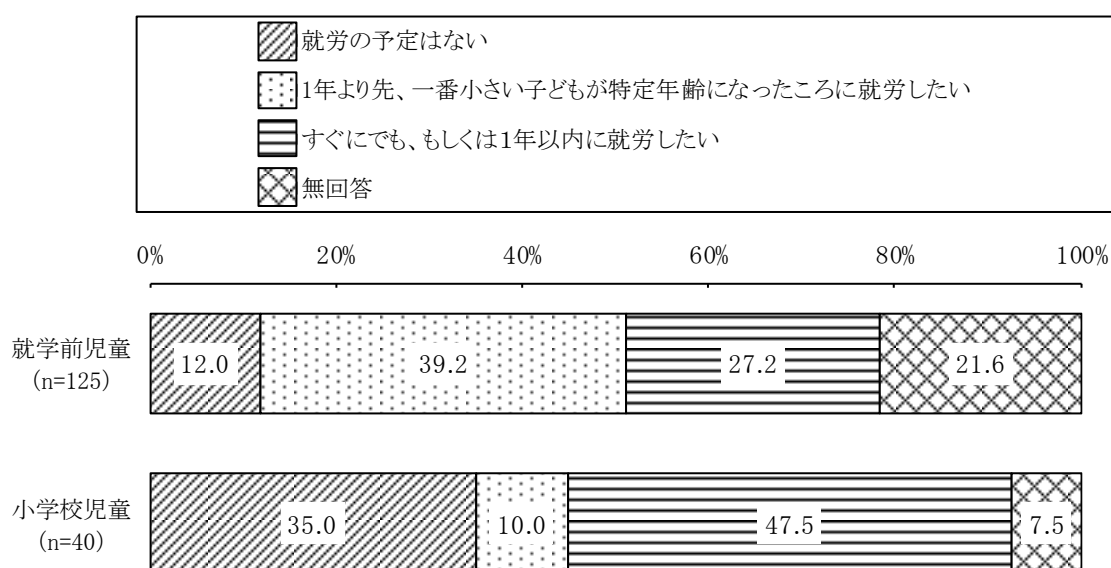
就学前児童を持つ「以前は仕事をしていましたが、現在は仕事をしていない」または「これまでに仕事をしたことがない」母親125人を対象に、就労希望を尋ねたところ、「1年より先、一番小さい子どもが特定年齢になったところに就労したい」が約4割を占める。「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3割弱で、現在就労していない人の7割弱が今後の就労について意欲を示している。

小学校児童を持つ「以前は仕事をしていましたが、現在は仕事をしていない」または「これまでに仕事をしたことがない」母親40人を対象に、就労希望を尋ねたところ、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が半数弱を占める。

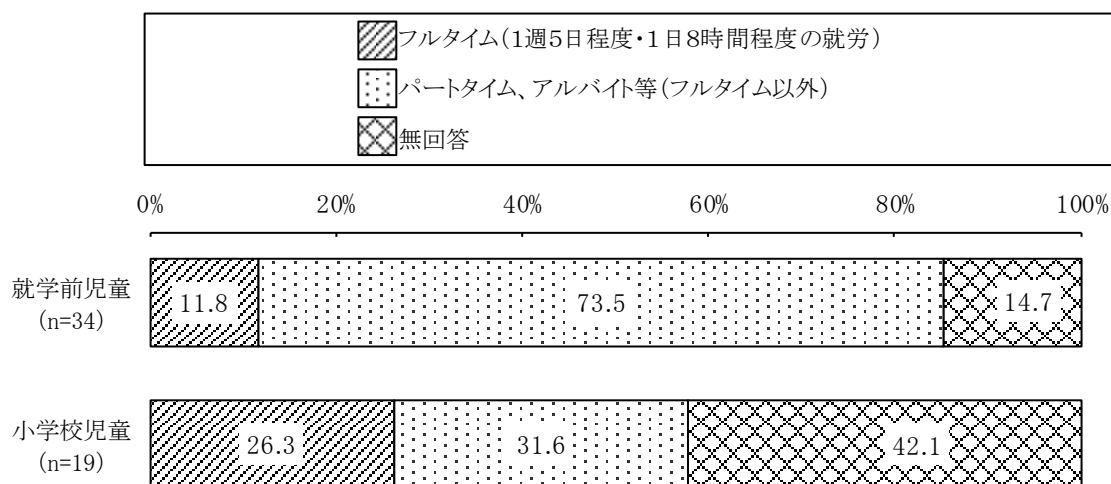
また、就学前児童を持つ「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親34人の希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」が7割台を占める。

小学校児童を持つ「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」母親19人の希望する就労形態は、「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」が約3割で最も高い。

### ◆母親の就労希望



### ◆希望する就労形態



### 3. 育児休業の取得状況について

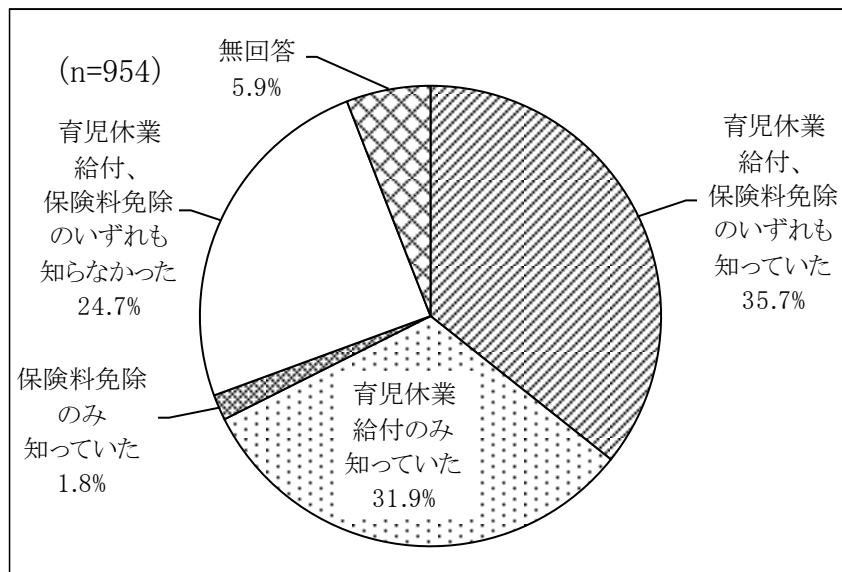
#### (1) 育児休業給付、保険料免除の認知

就学前児童では、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が最も多い。「育児休業給付のみ知っていた」が3割で続く。

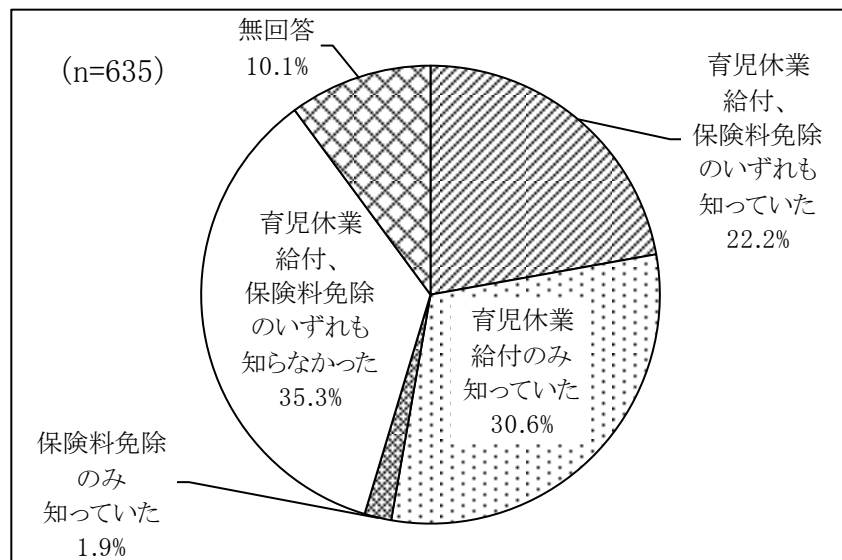
小学校児童では、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が最も多い。「育児休業給付のみ知っていた」が3割で続く。

#### ◆育児休業給付、保険料免除の認知

##### <就学前児童>



##### <小学校児童>



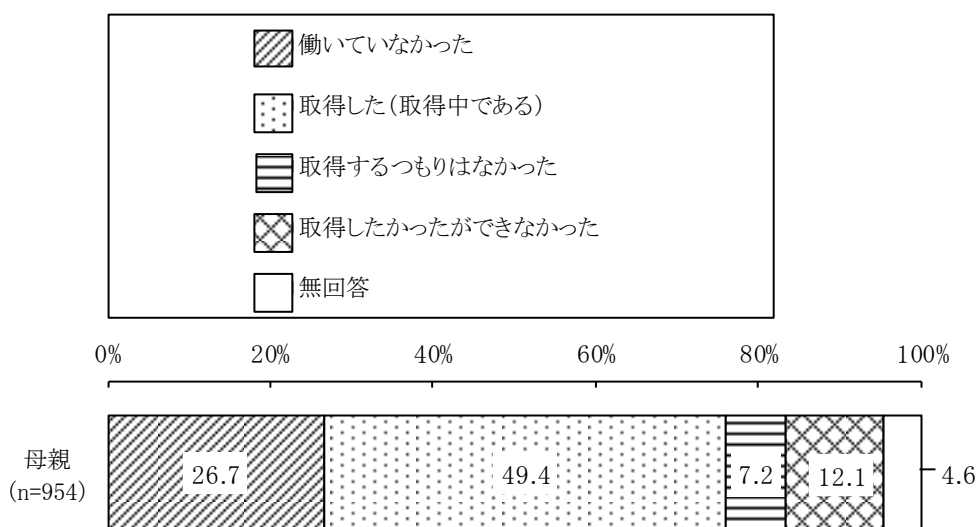
## (2) 母親の育児休業の取得状況と、母親の育児休業を取得していない理由

就学前児童では、母親の育児休業取得状況としては、「取得した」が約3割を占める。「取得したかったができなかった」が約1割の115人であった。母親の育児休業を取得していない理由としては、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」と「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が2割台である。

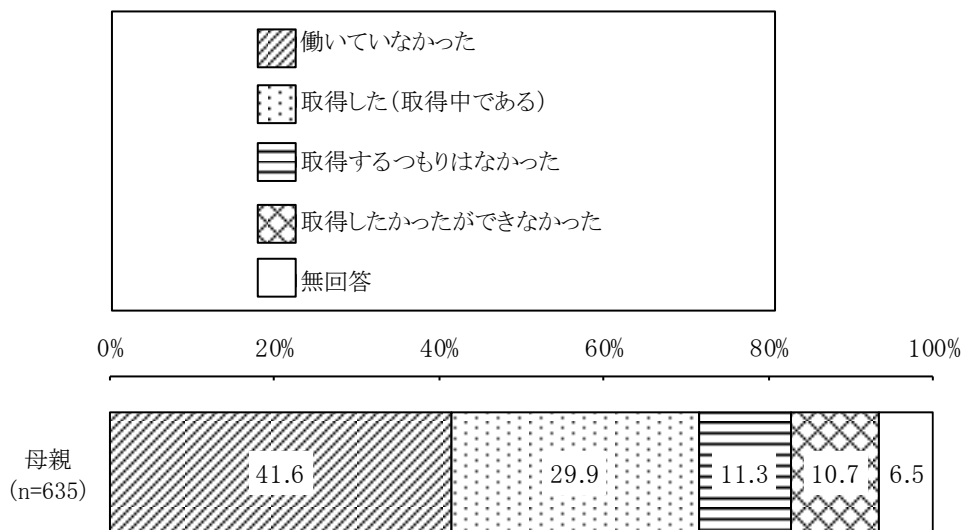
小学校児童では、母親の育児休業取得状況としては、「取得した」が約3割である。「取得したかったができなかった」が約1割の68人であった。母親の育児休業を取得していない理由としては、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が約3割、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が2割台で続く。

### ◆母親の育児休業の取得状況

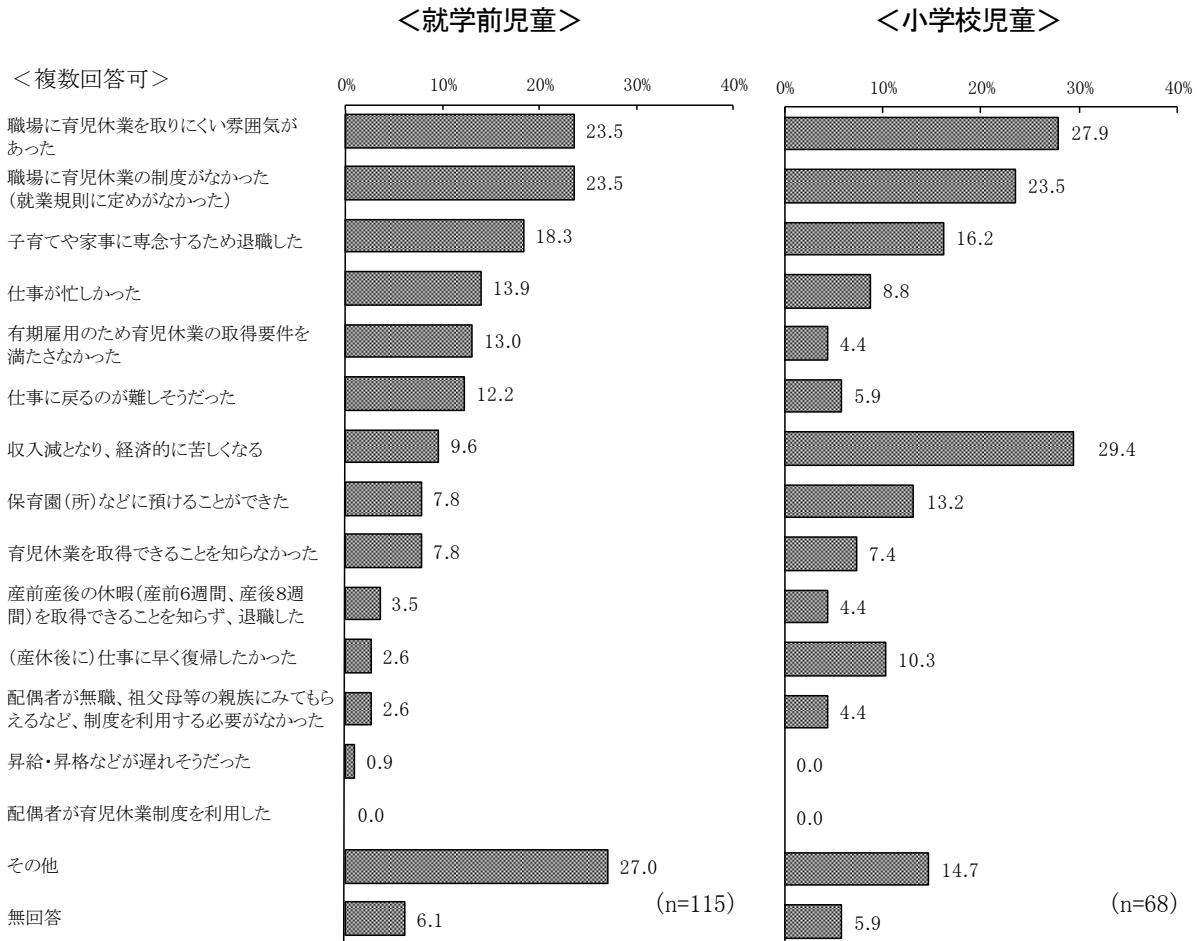
#### <就学前児童>



#### <小学校児童>



◆母親の育児休業を取得していない理由



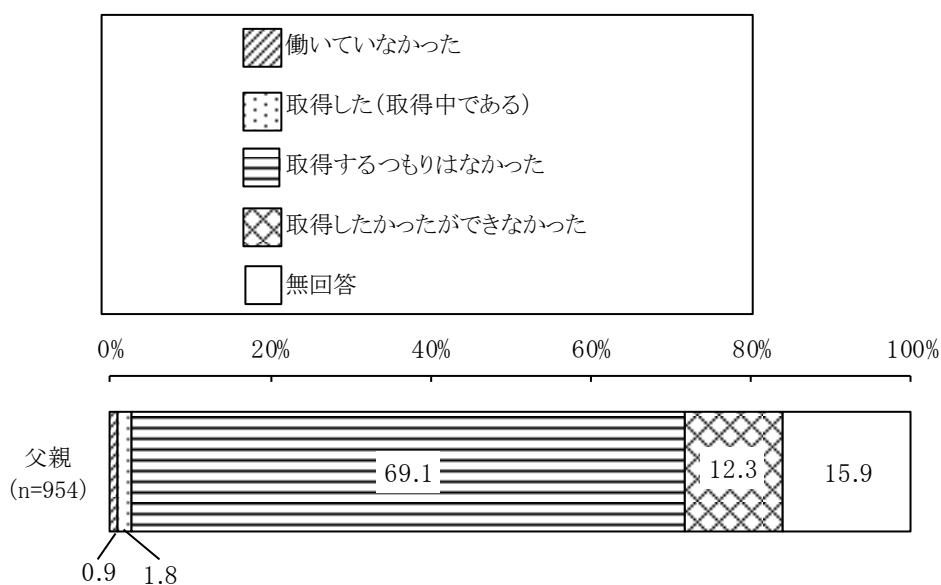
### (3) 父親の育児休業の取得状況と、父親の育児休業を取得していない理由

就学前児童では、父親の育児休業取得状況としては、「取得していない」が約8割の776人。父親の育児休業を取得していない理由としては、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」と「仕事が忙しかった」の割合が半数を超え、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が5割弱で続く。

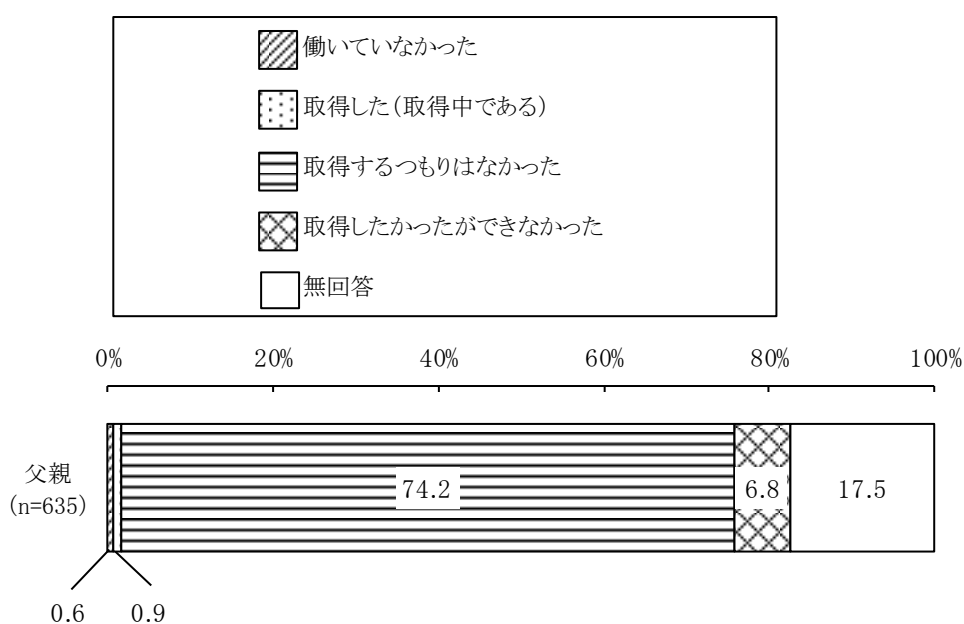
小学校児童では、父親の育児休業取得状況としては、「取得していない」が約8割の506人。父親の育児休業を取得していない理由としては、「仕事が忙しかった」が5割弱、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が約4割で続く。

#### ◆父親の育児休業の取得状況

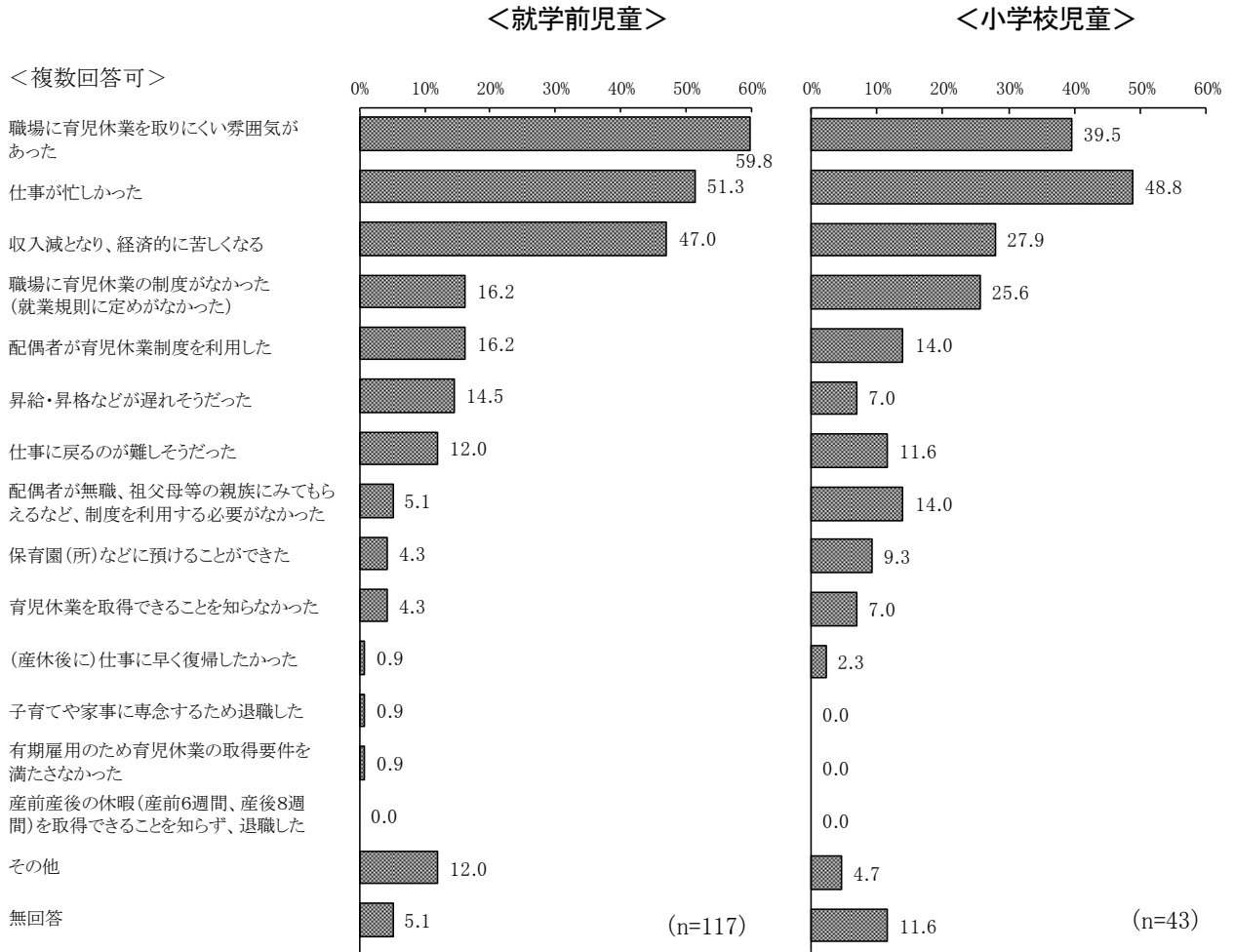
##### <就学前児童>



##### <小学校児童>



◆父親の育児休業を取得していない理由



#### 4. 平日の定期的な教育・保育事業の利用や意向などについて（就学前児童のみ）

##### （1）利用状況と利用意向

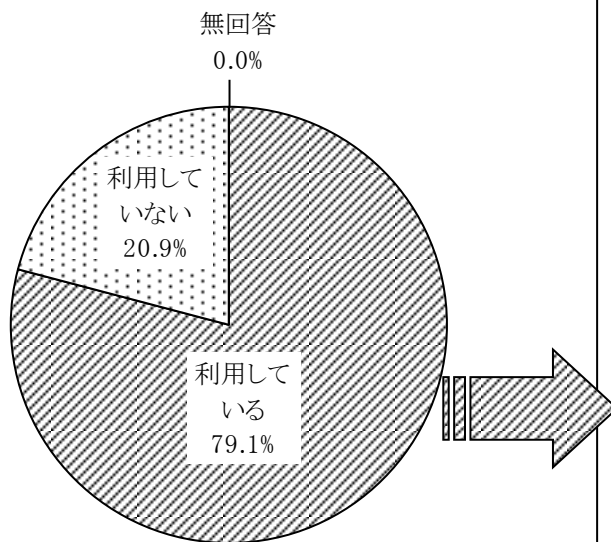
就学前児童では、約8割の755人が保育園・認定こども園・幼稚園などの「定期的な教育・保育事業を現在利用中」である。その利用している事業の内容を尋ねたところ「市立、私立保育所」に通っている児童が約6割となっている。次いで、「認定こども園（保育認定枠・長時間利用）」に通っている児童が2割台で続く。

利用希望の最も高い事業は「市立、私立保育所」で、6割台である。「認定こども園（保育認定枠・長時間利用）」が約4割で続く。

なお、幼稚園希望者213人の6割以上は幼稚園の利用を強く希望している。

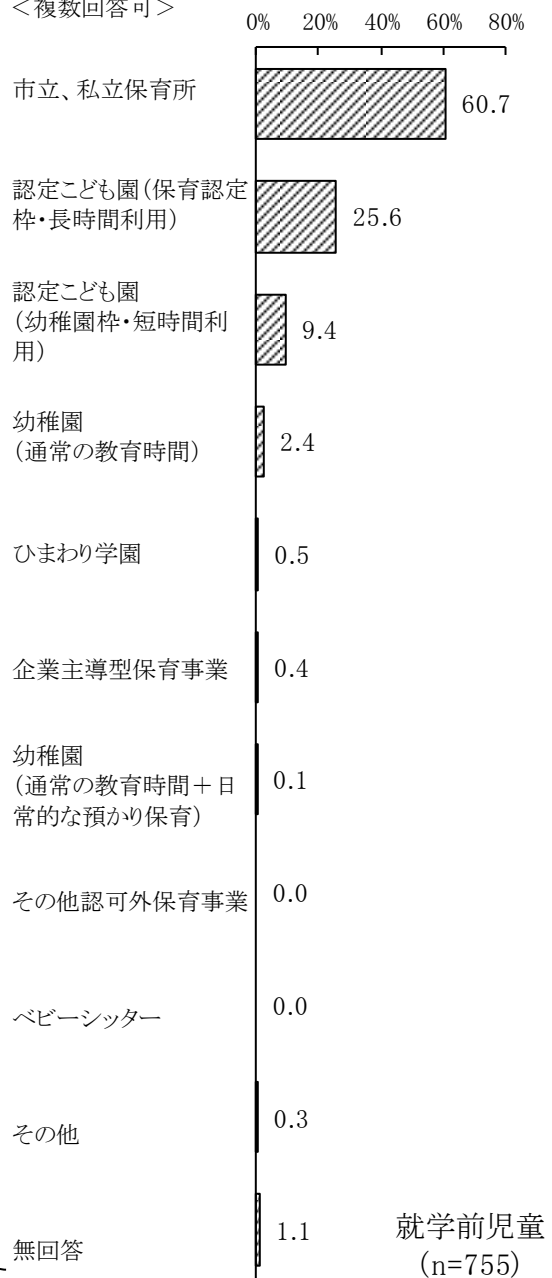
##### ◆利用の有無

(n=954)



##### ◆利用事業の内容

<複数回答可>

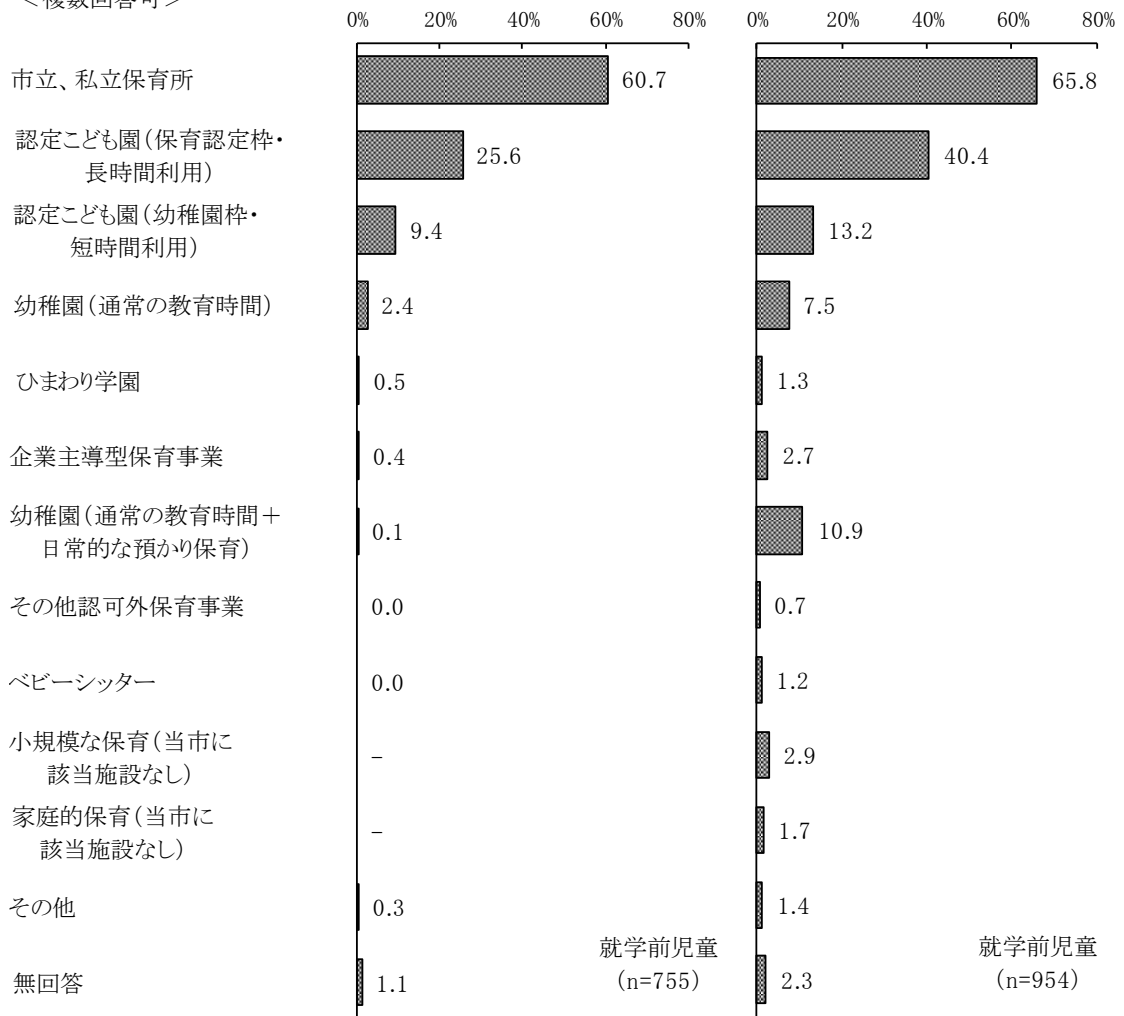




◆利用中の定期的な教育・保育事業

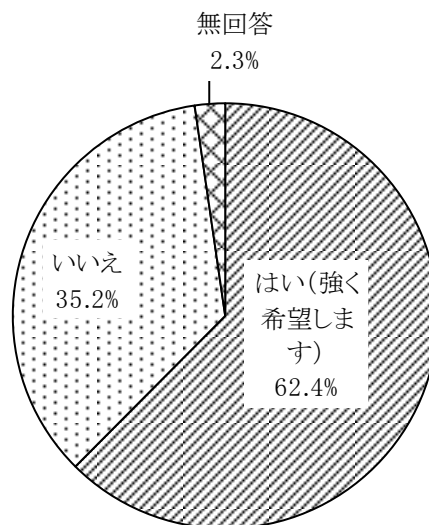
◆希望する定期的な教育・保育事業

<複数回答可>



◆幼稚園希望者

(n=213)



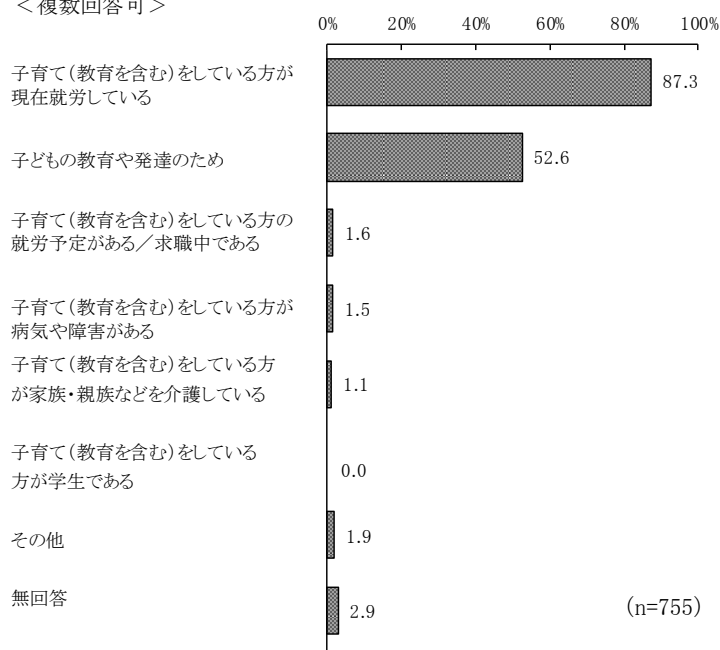
## (2) 平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由と利用していない理由

就学前児童で「定期的な教育・保育事業を現在利用中」の755人に利用している理由を尋ねたところ、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が9割弱で最も高い。

一方で、「定期的な教育・保育事業を現在利用していない」199人に利用していない理由を尋ねたところ、「子どもがまだ小さいため特定年齢くらいになったら利用しようと考えている」が半数を超えて最も高く、「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が続く。

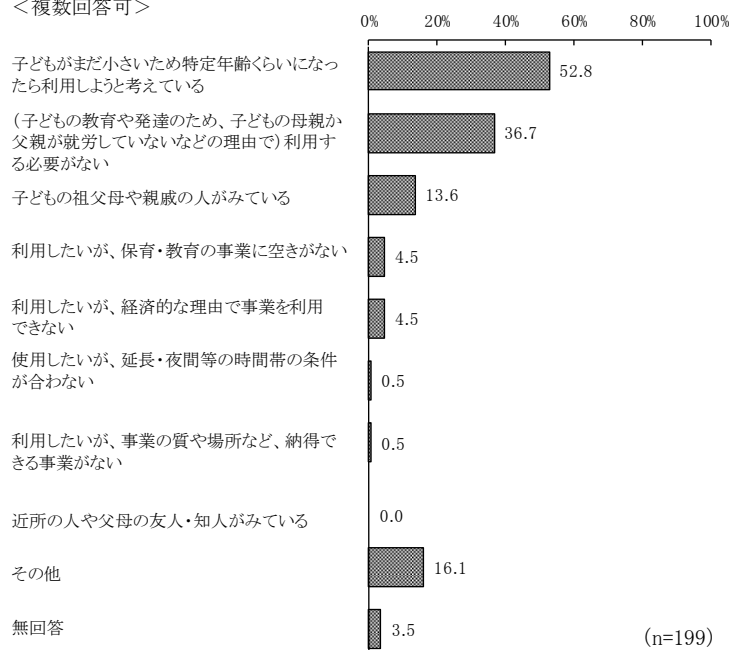
### ◆利用している理由

<複数回答可>



### ◆利用していない理由

<複数回答可>



## 5. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について（就学前児童のみ）

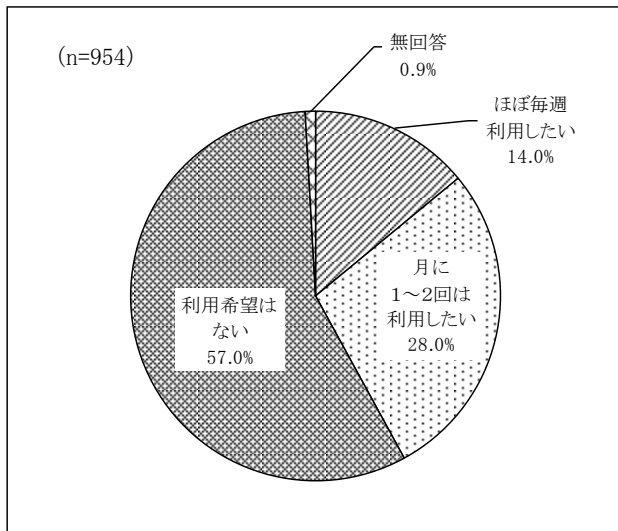
就学前児童の土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望は、利用意向頻度に差はあるが土曜日については「利用したい」が約4割を占める。頻度としては「月に1～2回は利用したい」が多い。

日曜日・祝日については、「利用したい」が1割台である。頻度としては、「月に1～2回は利用したい」が多い。

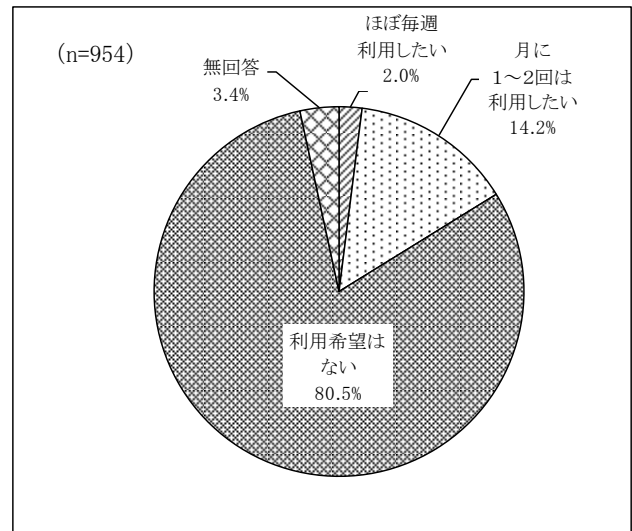
また、土曜日や日曜日・祝日の利用を希望している408人の利用したい理由を尋ねたところ、「出勤のローテーションや出張等で土・日・祝日が含まれることがあるから」が約6割、「土・日・祝日が正規の就業日として決められているから」が約4割と続く。

なお、幼稚園通園者として当該設問に回答のあった21人の長期休暇期間中の利用意向は「ほぼ毎日利用したい」が4割台である。

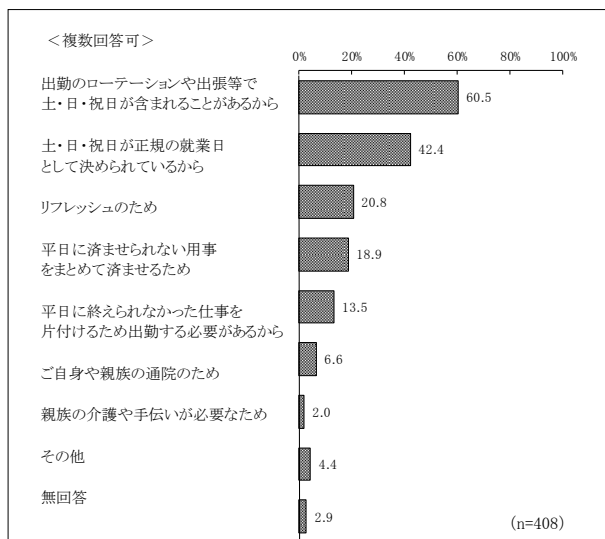
### ◆土曜日の利用希望



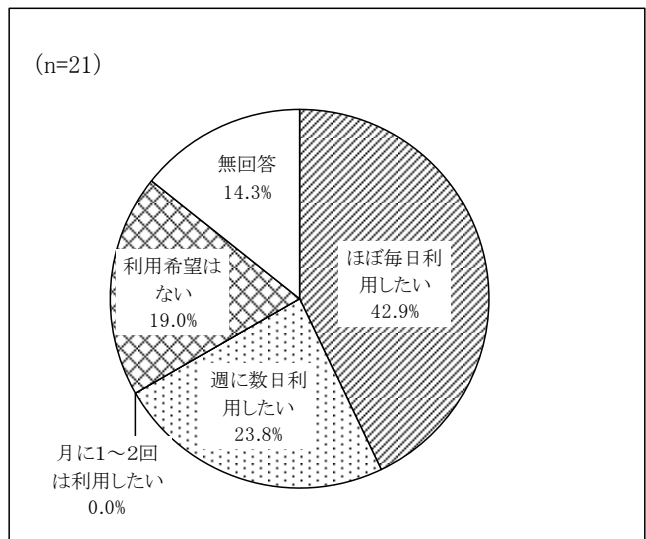
### ◆日曜日・祝日の利用希望



### ◆（土曜・日曜・祝日に利用したい方に） 利用したい理由



### ◆長期休暇期間中の教育・保育事業の 利用状況（幼稚園利用者）



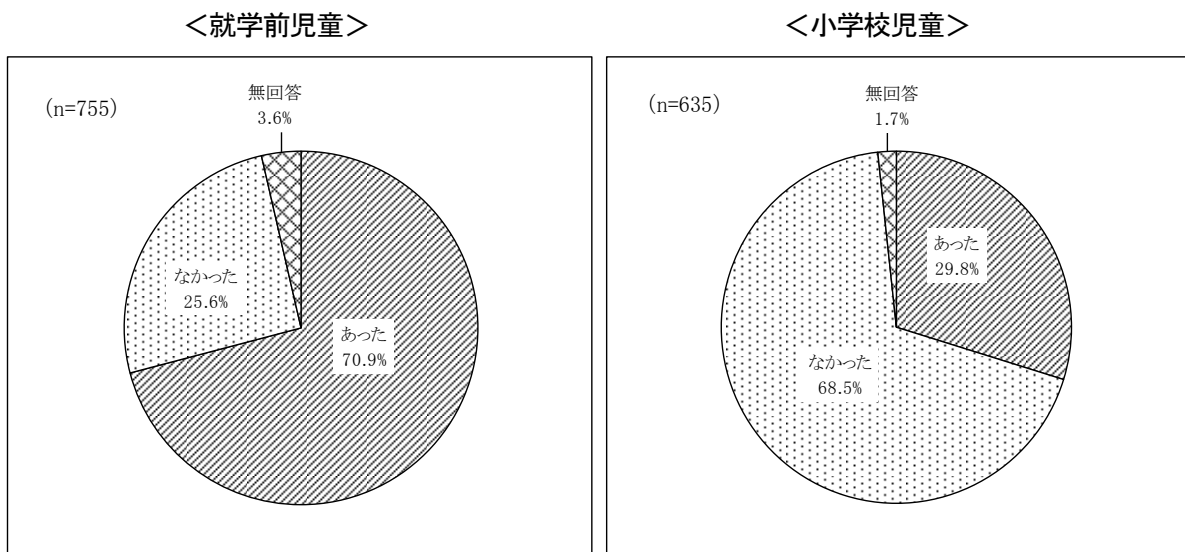
## 6. 病気の際の対応について

### (1) 病気などによる通常事業休止経験の有無・休止中の対処方法

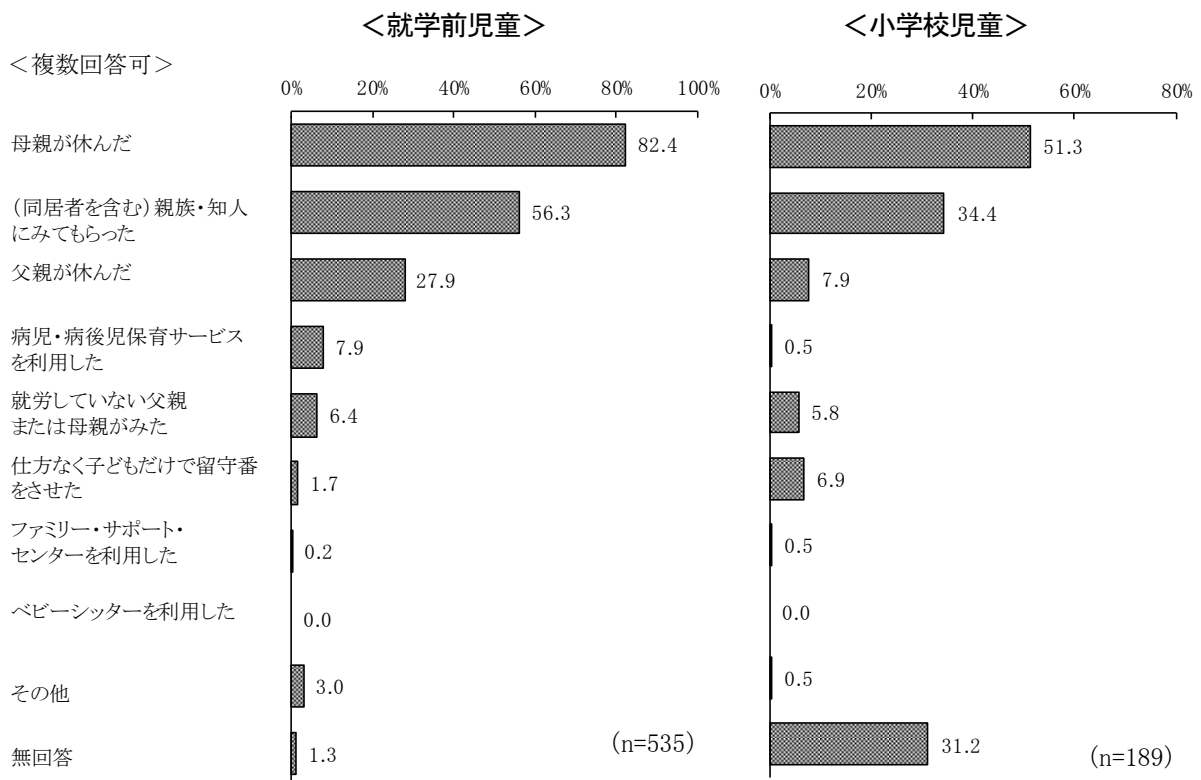
就学前児童を持つ「平日の定期的な教育・保育事業を利用している」755人を対象に、病気などによる通常事業休止経験を尋ねたところ「あった」が約7割の535人。その際の対処方法は、「母親が休んだ」が8割台である。

小学校児童では、「あった」が約3割の189人。その際の対処方法は、「母親が休んだ」が約5割、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が3割台で続く。

#### ◆病気などによる通常事業休止経験の有無



#### ◆休止中の対処方法



(2) 「病児・病後児の保育サービス」の利用意向や利用したいと思わない理由

病気などによる通常事業休止経験の対処方法で、「母親が休んだ」、「父親が休んだ」、「親族・知人にみてもらった」または「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」と回答した就学前児童を持つ498人を対象に、病児・病後児の保育サービスの利用意向を尋ねたところ、「今後、病児・病後児の保育サービスを利用したい」が2割台である。

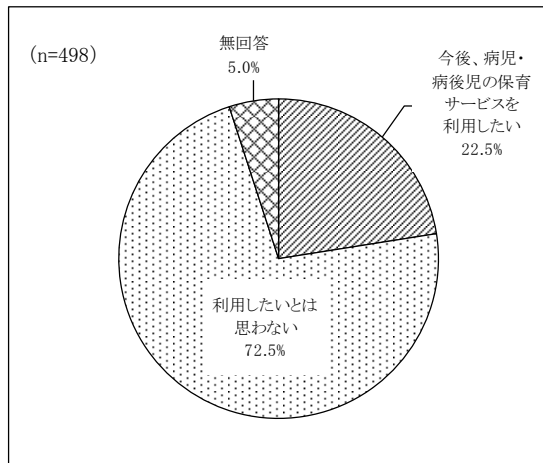
小学生児童を持つ121人の利用意向を尋ねたところ、「今後、病児・病後児の保育サービスを利用したい」が1割未満である。

また、「(病児・病後児の保育サービスを) 利用したいとは思わない」と回答した就学前児童を持つ361人を対象に、その理由を尋ねたところ、「病気の時は自分が見たいと思うから」が最も多い。

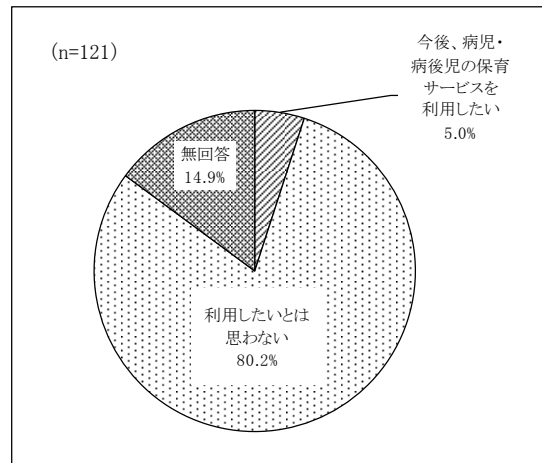
「(病児・病後児の保育サービスを) 利用したいとは思わない」と回答した小学校児童を持つ97人を対象に、その理由を尋ねたところ、「病気の時は自分が見たいと思うから」が最も多い。

◆ 「病児・病後児保育施設」などの利用意向

<就学前児童>

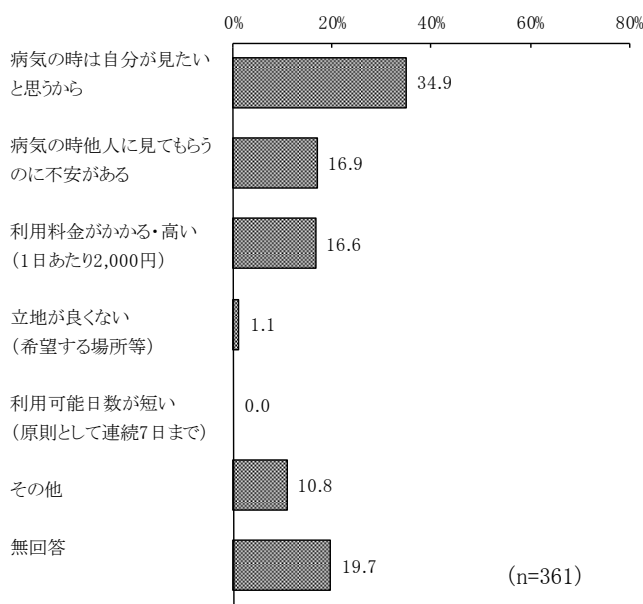


<小学校児童>

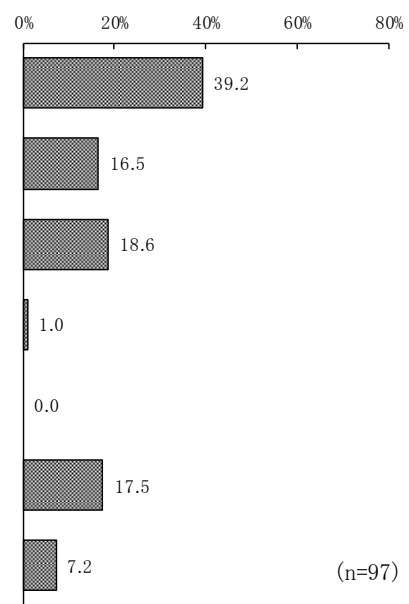


◆ 利用したいと思わない理由

<就学前児童>



<小学校児童>

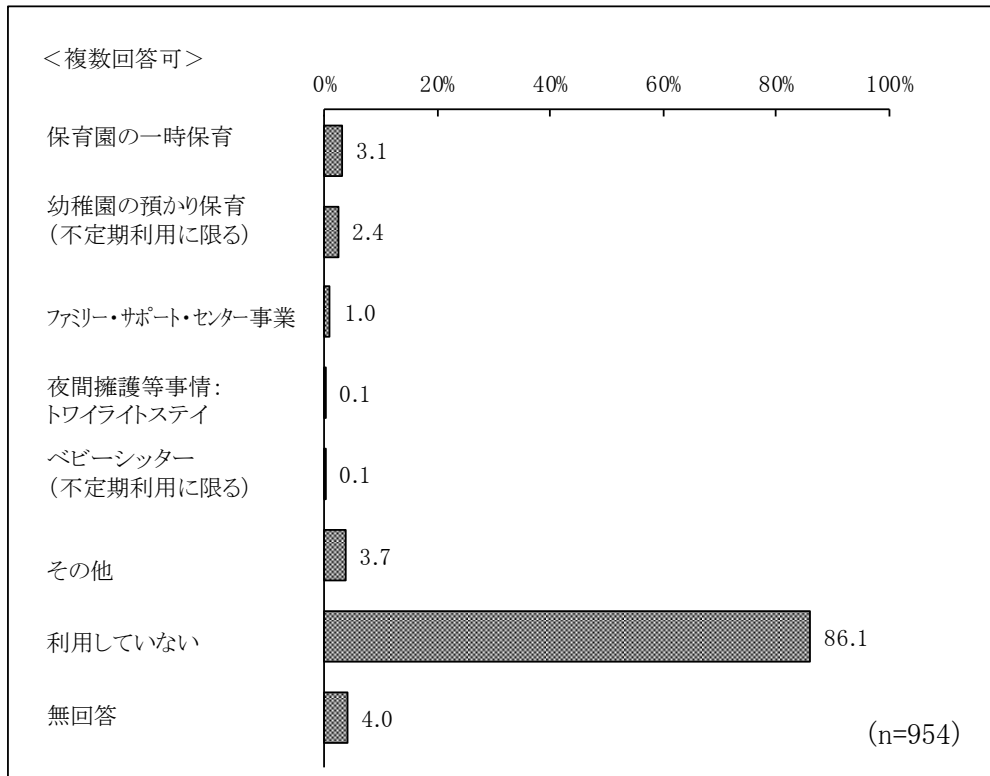


## 7. 不定期の一時預かりや宿泊を伴う預かりなどの利用について

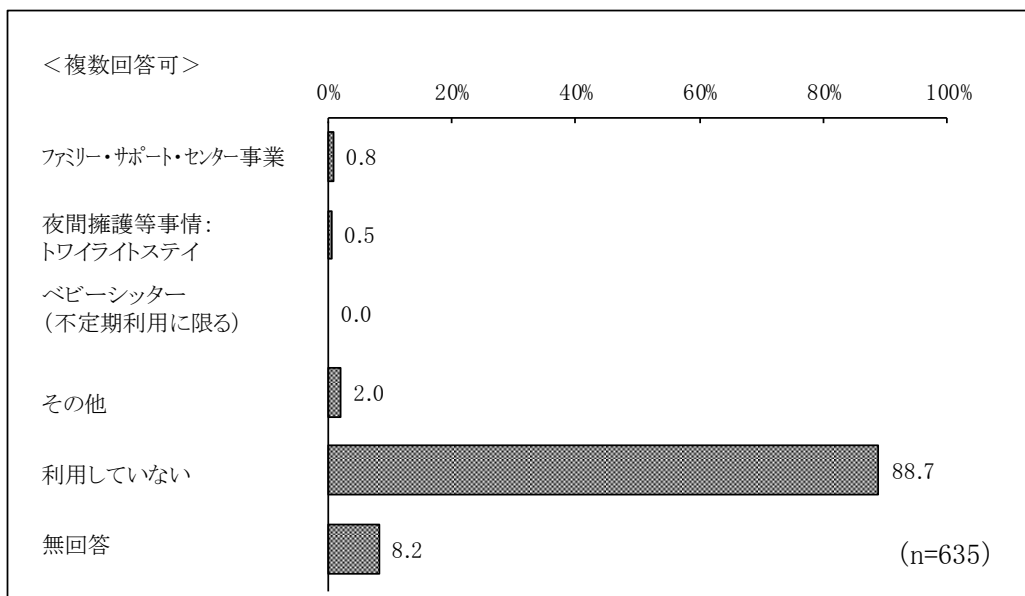
### (1) 一時預かりなどの利用状況

就学前児童では、同事業の必要性の無い人も含めて「利用していない」が多数を占める。実際に利用している事業・サービスの中では、「保育園の一時保育」が最も多い。小学校児童では、「利用していない」が約9割を占める。

#### ◆一時預かり等の利用状況 ＜就学前児童＞



#### ＜小学校児童＞

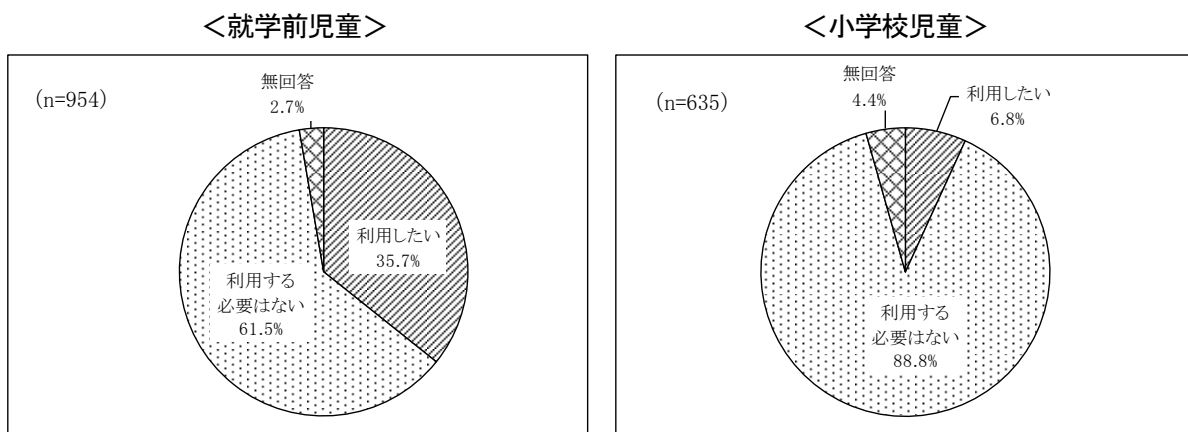


## (2) 一時預かりなどの利用希望

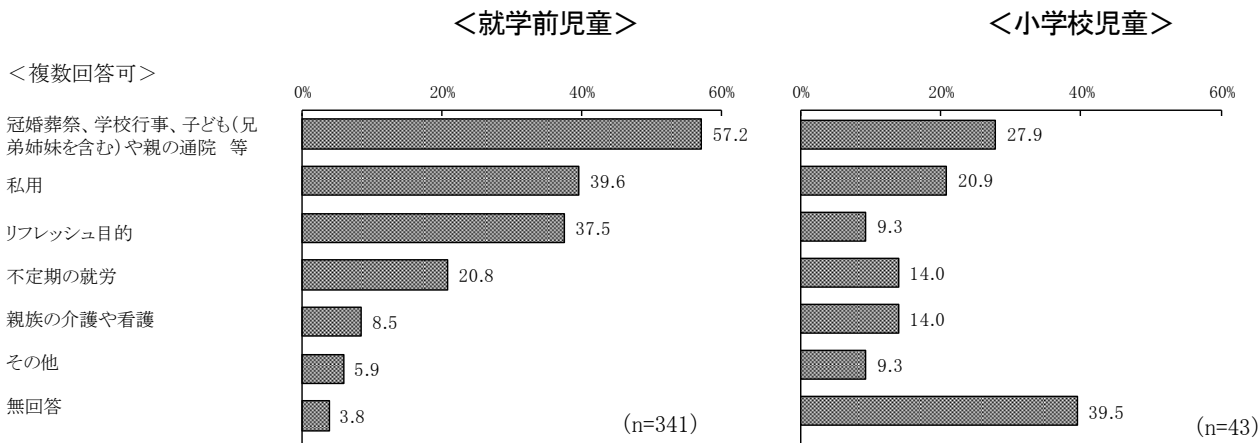
不定期の一時預かり事業の利用意向を尋ねたところ、「利用したい」が3割台の341人である。その利用目的としては、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」が最も多い。

小学校前児童の利用意向は、「利用したい」が1割未満の43人である。その利用目的としては、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院 等」が最も多い。

### ◆一時預かりなどの利用希望



### ◆利用目的

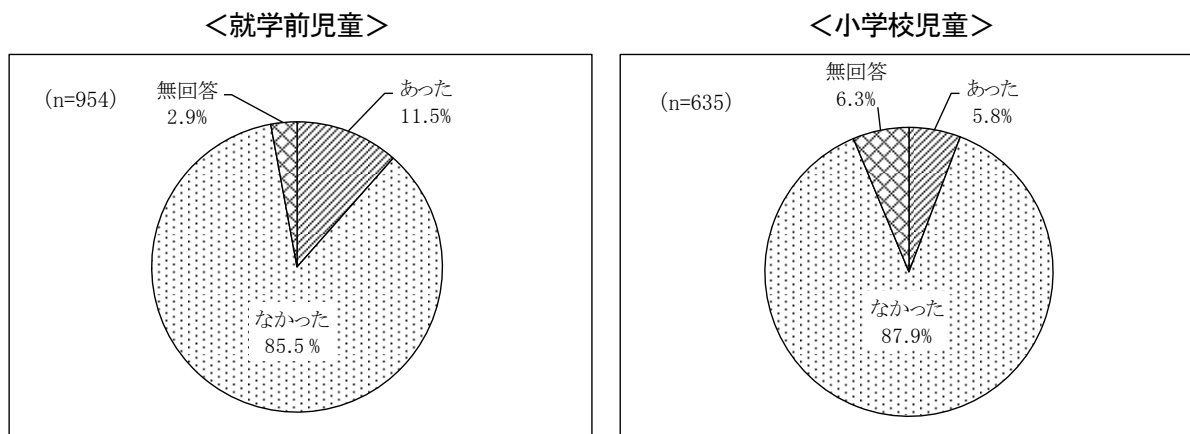


### (3) 宿泊を伴う一時預かりを必要とした状況の有無と対処方法

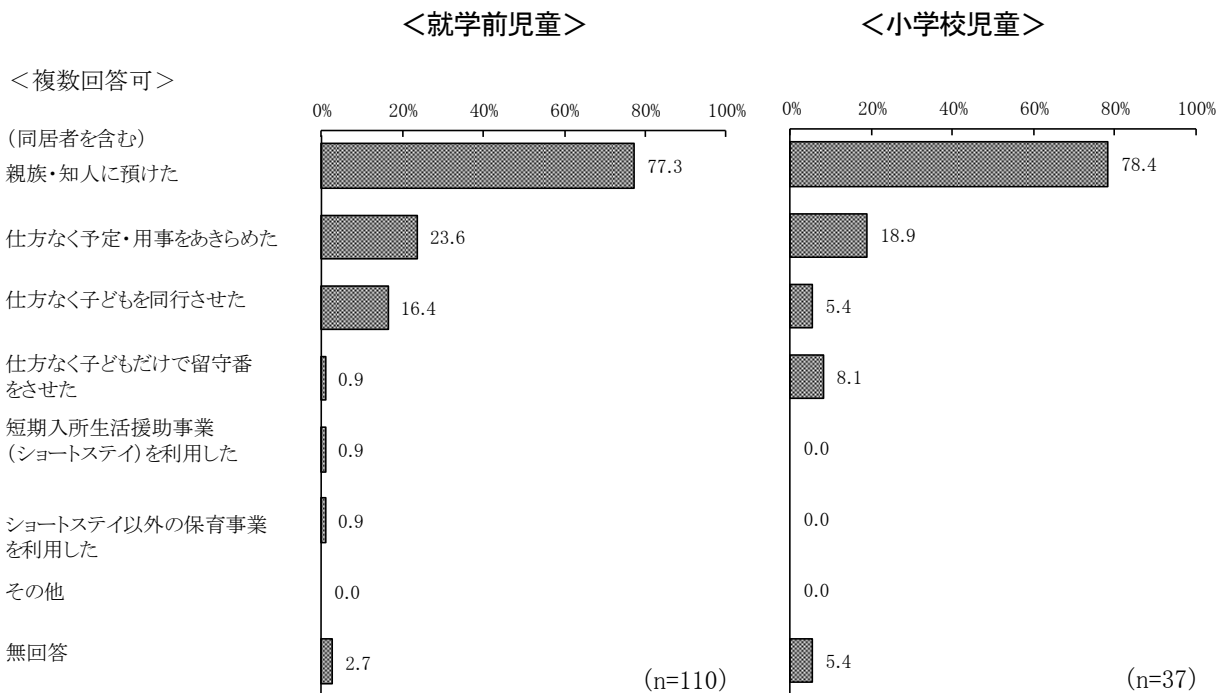
就学前児童では、宿泊を伴う一時預かりを必要とした状況が「あった」が1割台の110人。その際の対処方法は、「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」ケースが8割弱である。

小学校児童では、宿泊を伴う一時預かりを必要とした状況が「あった」が約6%の37人。その際の対処方法は、「(同居者を含む) 親族・知人に預けた」ケースが約8割である。

#### ◆宿泊を伴う一時預かりを必要とした状況の有無



#### ◆対処方法



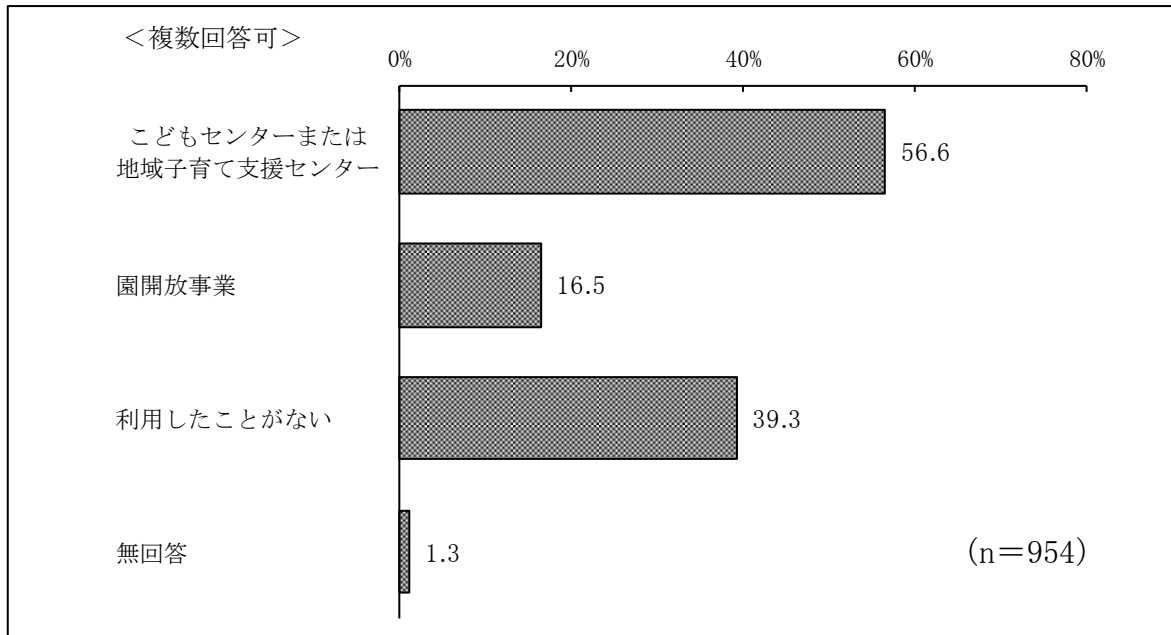


## 8. 地域の子育て支援事業の利用状況について（就学前児童のみ）

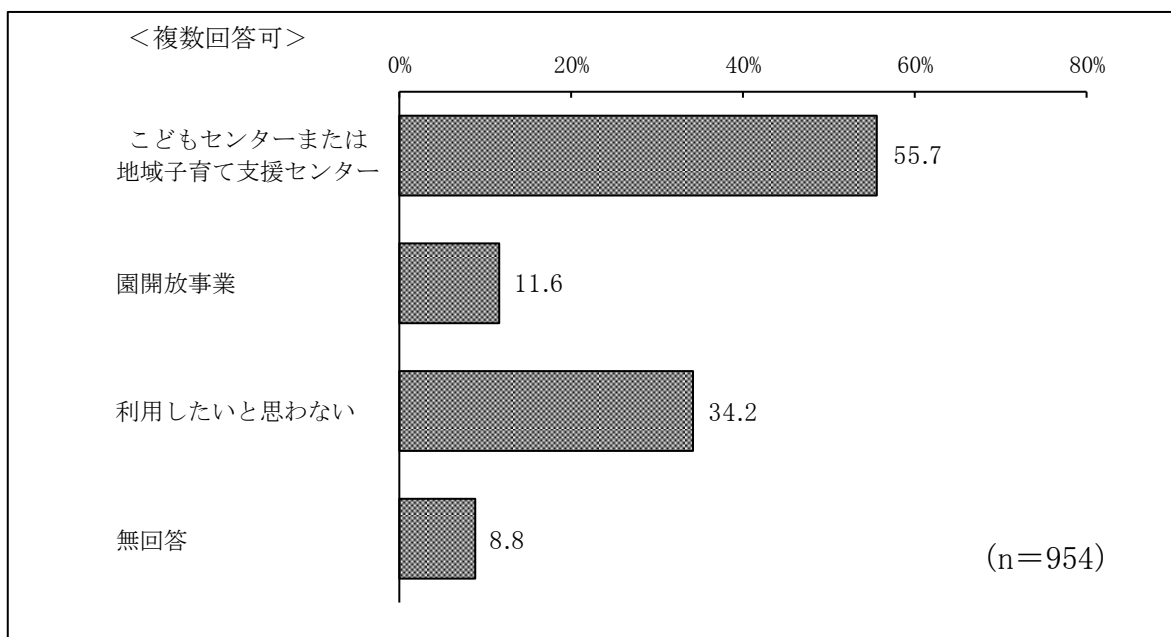
就学前児童の「こどもセンターまたは地域子育て支援センター」の利用経験者は半数以上、今後の利用意向者も半数を超えている。

「園開放事業」の利用経験者、利用意向者は1割台である。

### ◆地域子育て支援拠点事業の利用経験



### ◆地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



## 9. 小学校就学後の放課後の過ごし方について

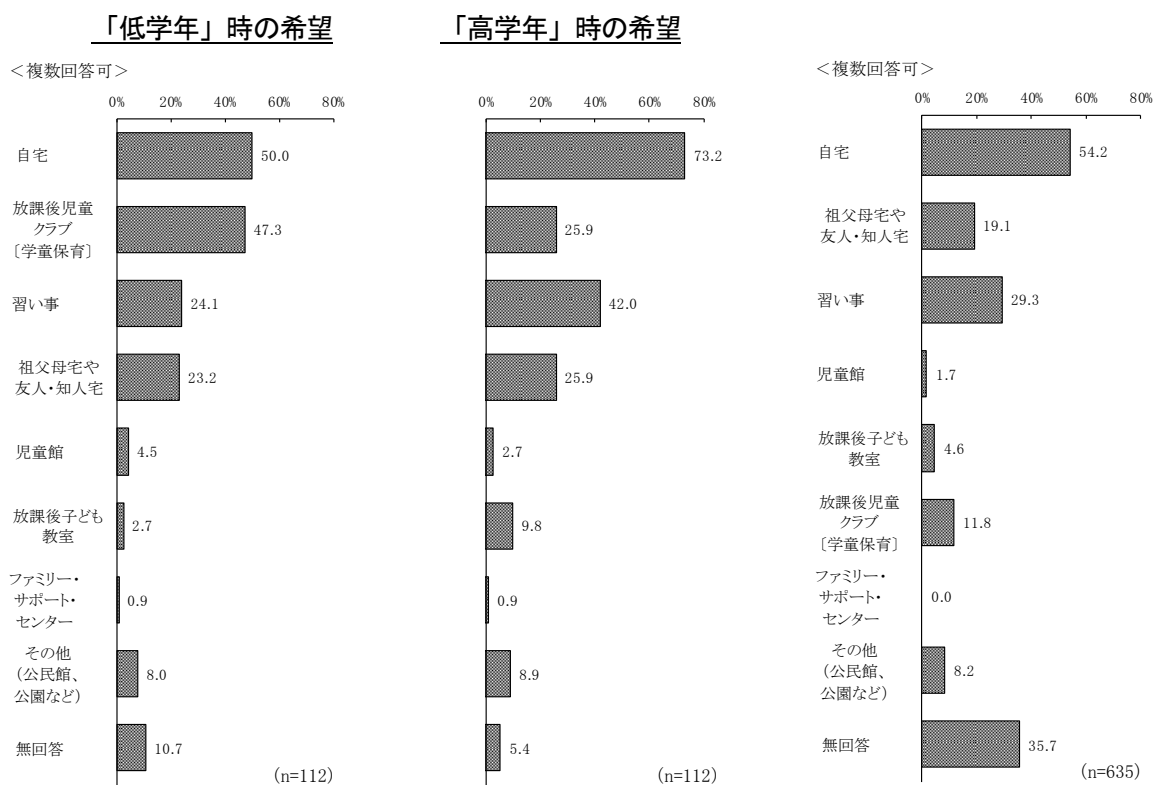
### (1) 希望する場所と過ごし方の状況

就学前児童では、来年度小学校就学予定である児童を持つ112人を対象に、就学後の放課後の過ごし方について尋ねたところ、希望する場所は、低学年時で「自宅」や「放課後児童クラブ〔学童保育〕」の希望者が約半数である。高学年時では、「自宅」希望者の割合が最も高く、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が続く。

小学校児童では、放課後の過ごし方について尋ねたところ、希望する場所は「自宅」が半数以上で最も高い。

#### ◆希望する場所 ＜就学前児童＞

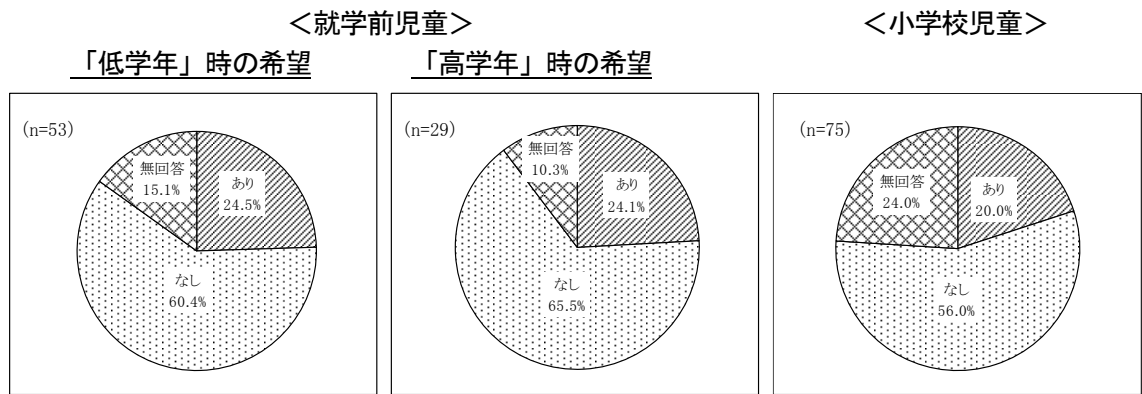
#### ◆過ごし方の状況（場所） ＜小学校児童＞



(2) 土曜日や夏休み等長期休業中における「放課後児童クラブ」の利用希望の有無

就学前児童では、低学年時の「放課後児童クラブ」利用希望者53人の土曜日の利用希望は「あり」が2割強、夏休み等長期休業中の利用希望は「あり」が8割強である。  
 高学年時の「放課後児童クラブ」利用希望者29人の土曜日の利用希望は「あり」が2割強、夏休み等長期休業中の利用希望は「あり」が7割強である。  
 小学校児童では、「放課後児童クラブ」利用希望者75人の土曜日の利用希望は「あり」が約2割、夏休み等長期休業中の利用希望は「あり」が7割強である。

◆土曜日における「放課後児童クラブ」の利用希望の有無



◆夏休み等長期休業時における「放課後児童クラブ」の利用希望の有無

